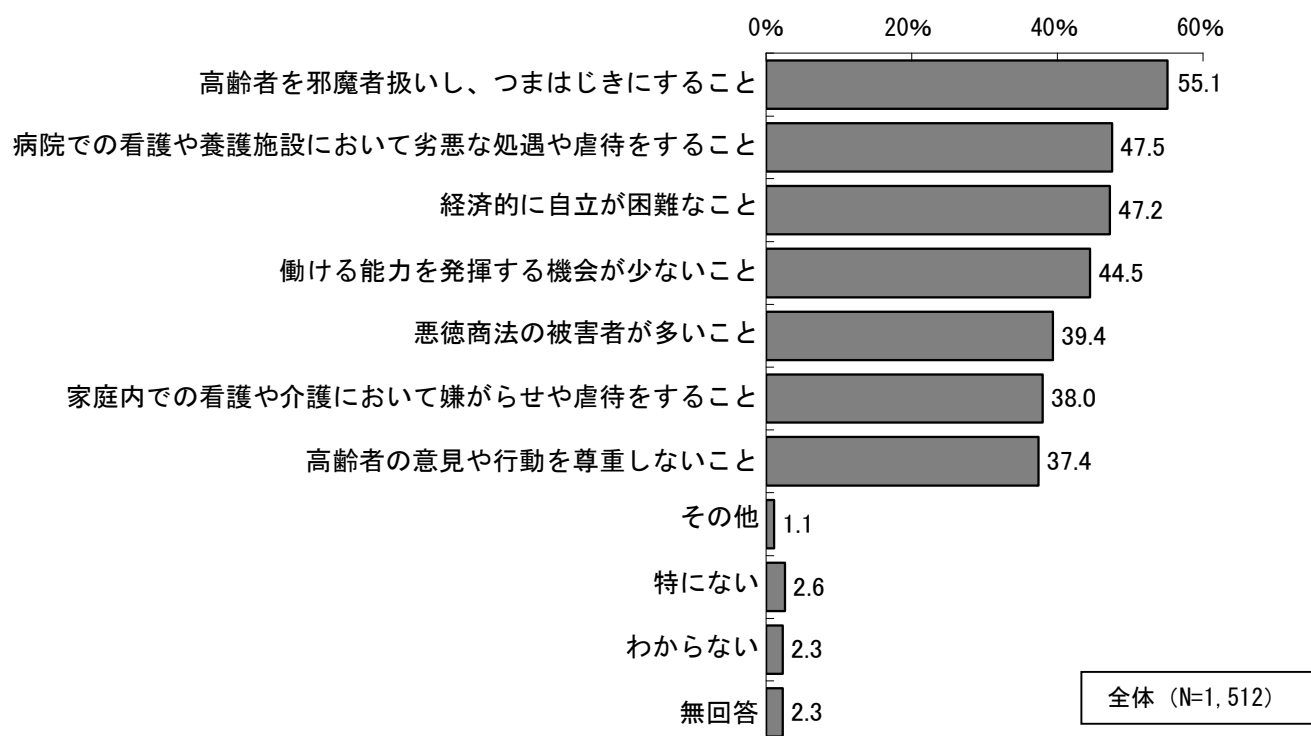


#### (4)高齢者に関する人権上の問題点

問 11 あなたは、高齢者に関する事柄で、人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。(✓はいくつでも)

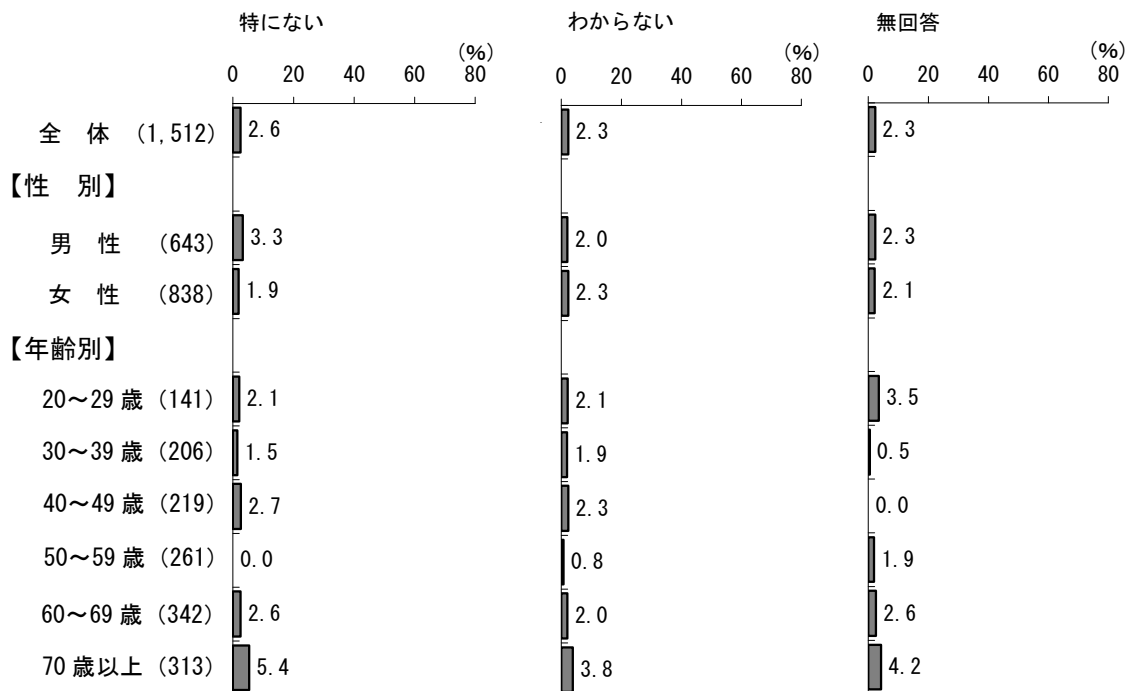
①図 13-1 高齢者に関する人権上の問題点【全体】



#### 高齢者に関する人権問題について、「高齢者を邪魔者扱いし、つまはじきにすること」が6割

高齢者に関する人権上の問題点について、「高齢者を邪魔者扱いし、つまはじきにすること」と回答した人の割合が 55.1%と最も高く、次いで「病院での看護や養護施設において劣悪な処遇や虐待をすること」(47.5%)、「経済的に自立が困難なこと」(47.2%)の順となっている。





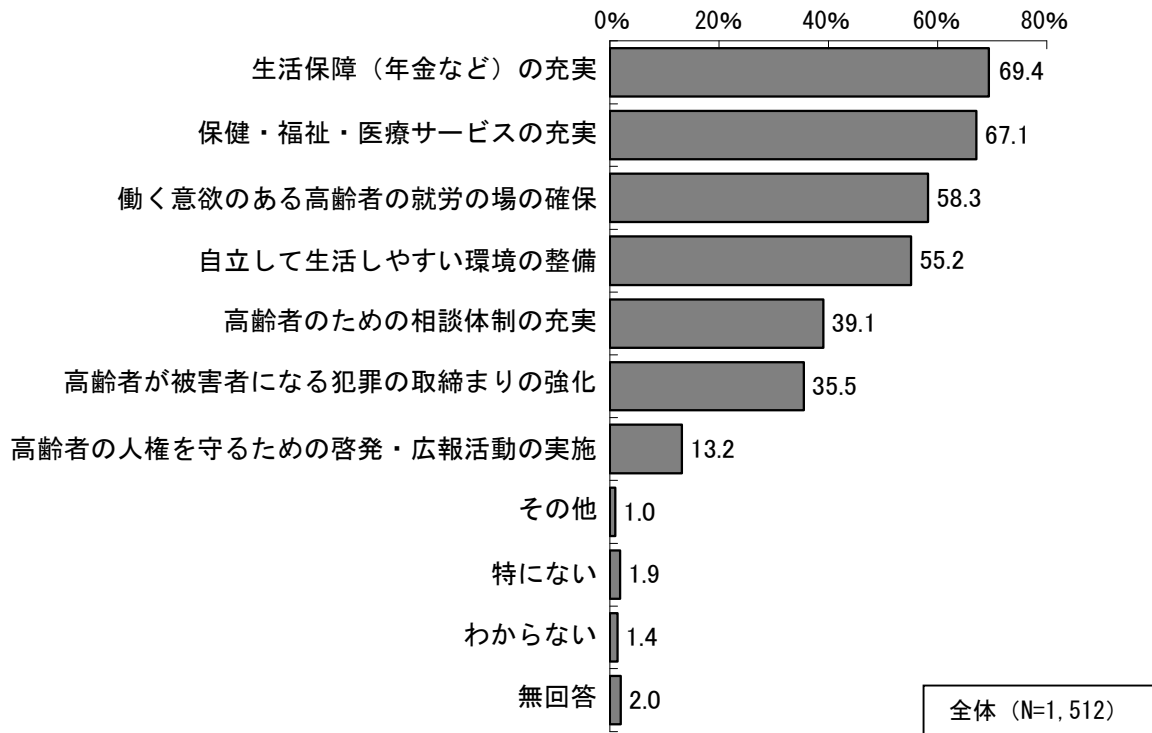
性別で比較すると、女性の方が「病院での看護や養護施設において劣悪な処遇や虐待をすること」と回答した人の割合が53.3%と、男性の40.7%と比べて高くなっている。

年齢別では、「働ける能力を発揮する機会が少ないこと」、「家庭内での看護や介護において嫌がらせや虐待をすること」と回答した人の割合は、年齢が低くなるにつれて高くなる傾向にある。

## ア 高齢者の人権を守るために必要なこと

問 12 高齢者の人権が守られるためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
(✓は5つまで)

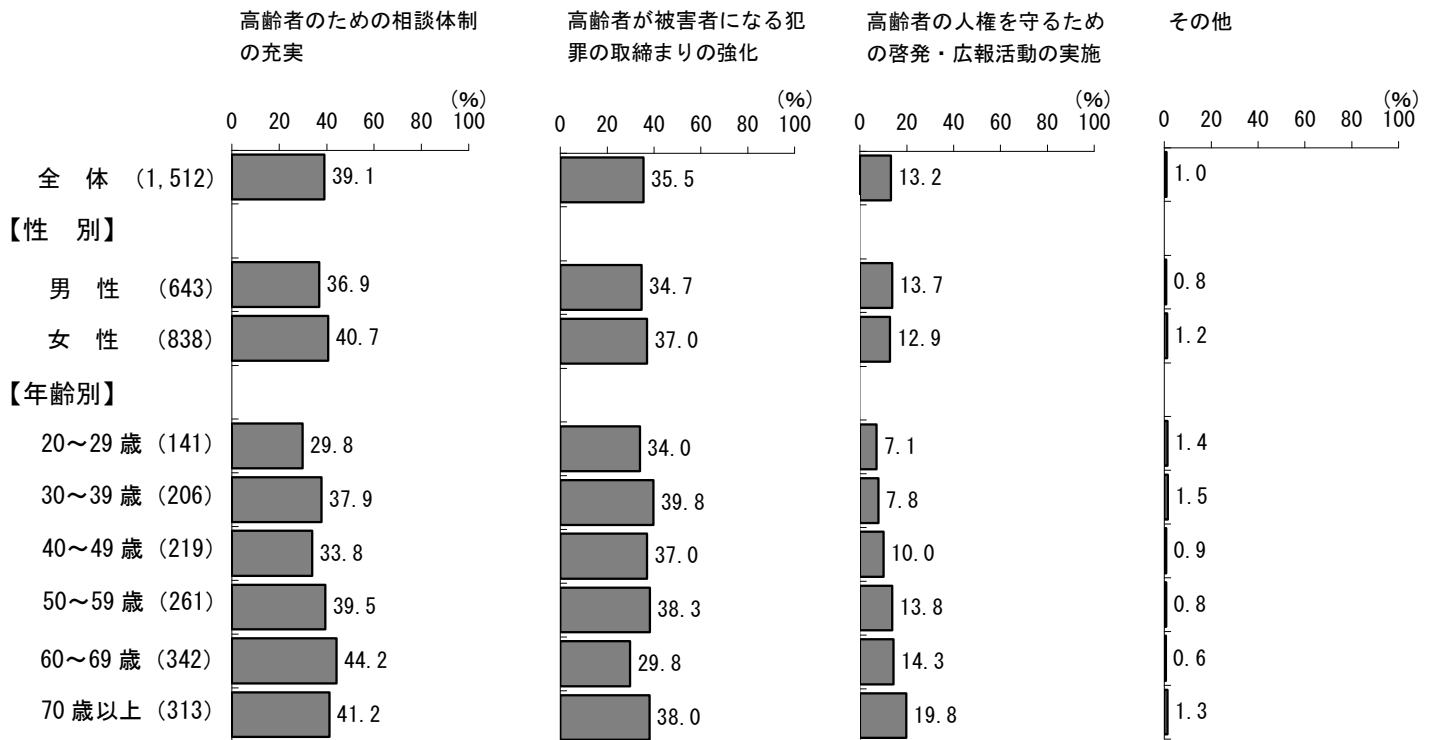
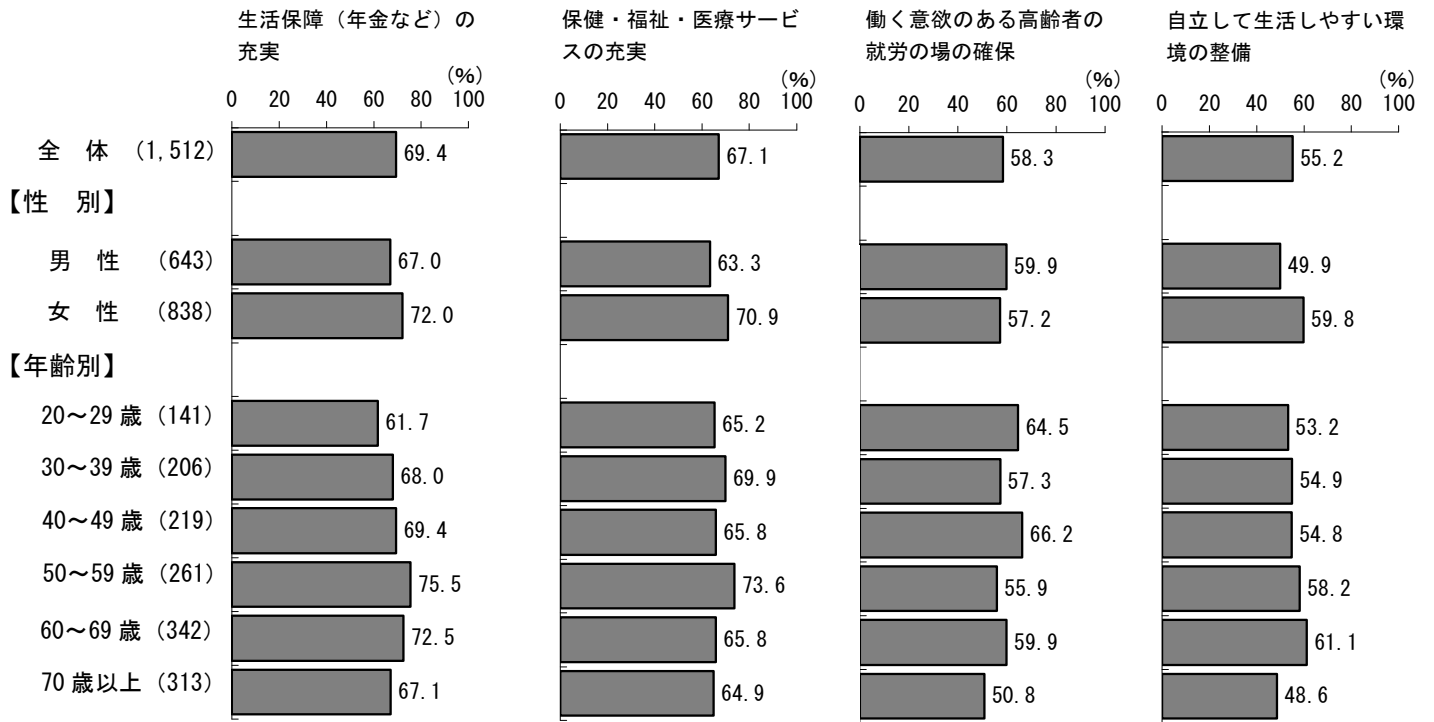
①図 14-1 高齢者の人権を守るために必要なこと【全体】

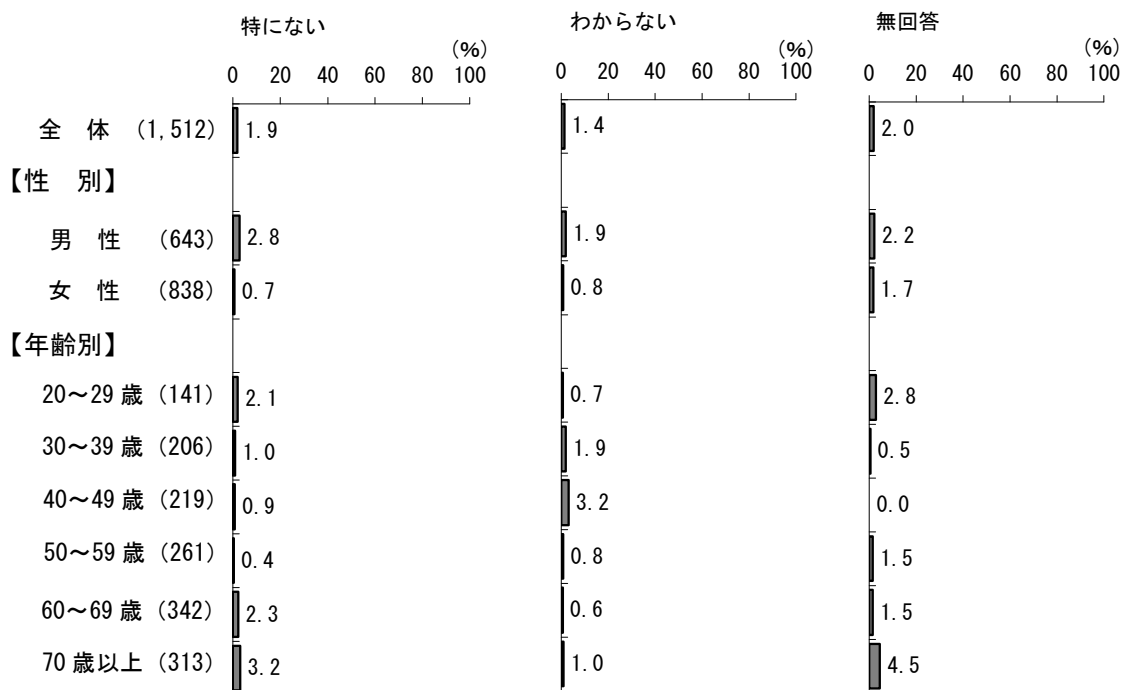


**高齢者の人権を守るために必要なことについて、「生活保障（年金など）の充実」、「保健・福祉・医療サービスの充実」がともに7割**

高齢者の人権を守るために必要なことについて、「生活保障（年金など）の充実」と回答した人の割合が69.4%と最も高く、次いで「保健・福祉・医療サービスの充実」（67.1%）、「働く意欲のある高齢者の就労の場の確保」（58.3%）の順となっている。

②図 14-2 高齢者の人権を守るために必要なこと【性別・年齢別】



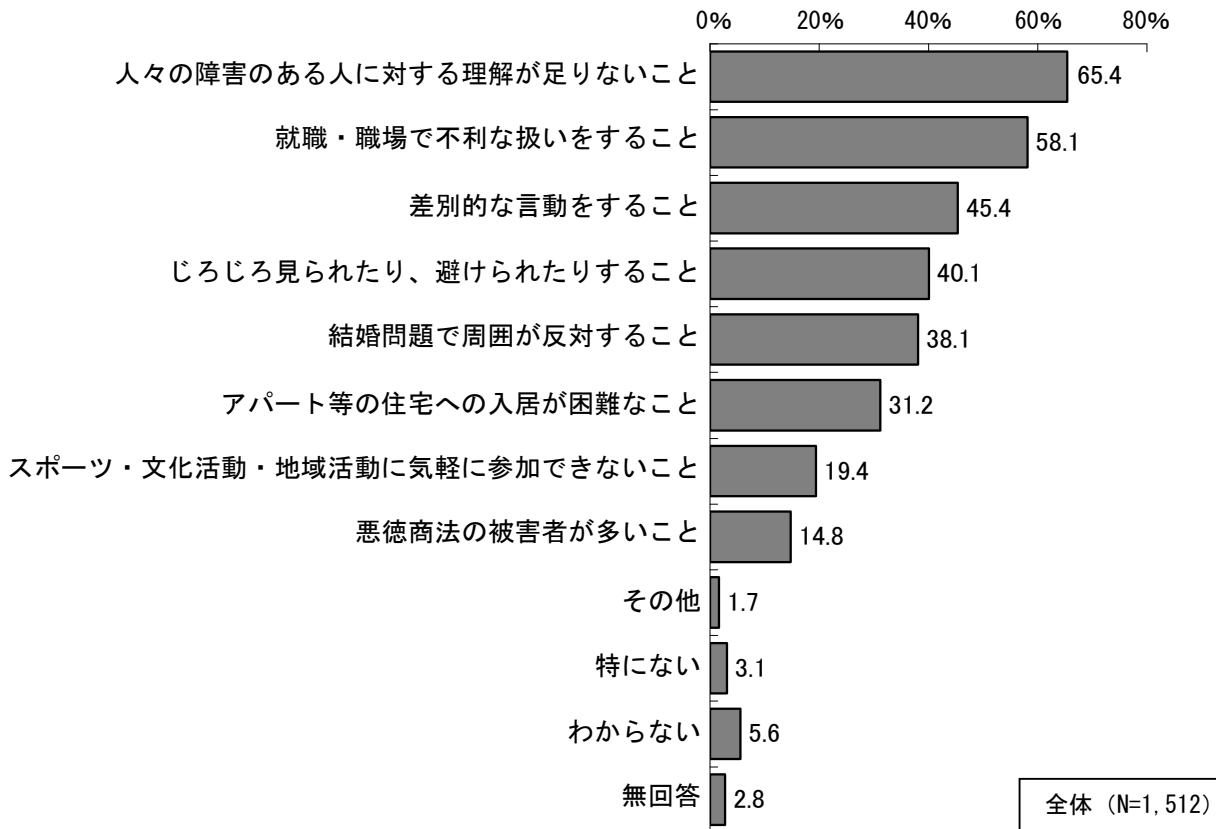


性別で比較すると、女性の方が「自立して生活しやすい環境の整備」(59.8%)、「保健・福祉・医療サービスの充実」(70.9%)と回答した人の割合が、男性の49.9%、63.3%と比べて高くなっている。

(5) 障害のある人に関し、どのような問題が起きているか

問 13 あなたは、障害のある人に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(✓はいくつでも)

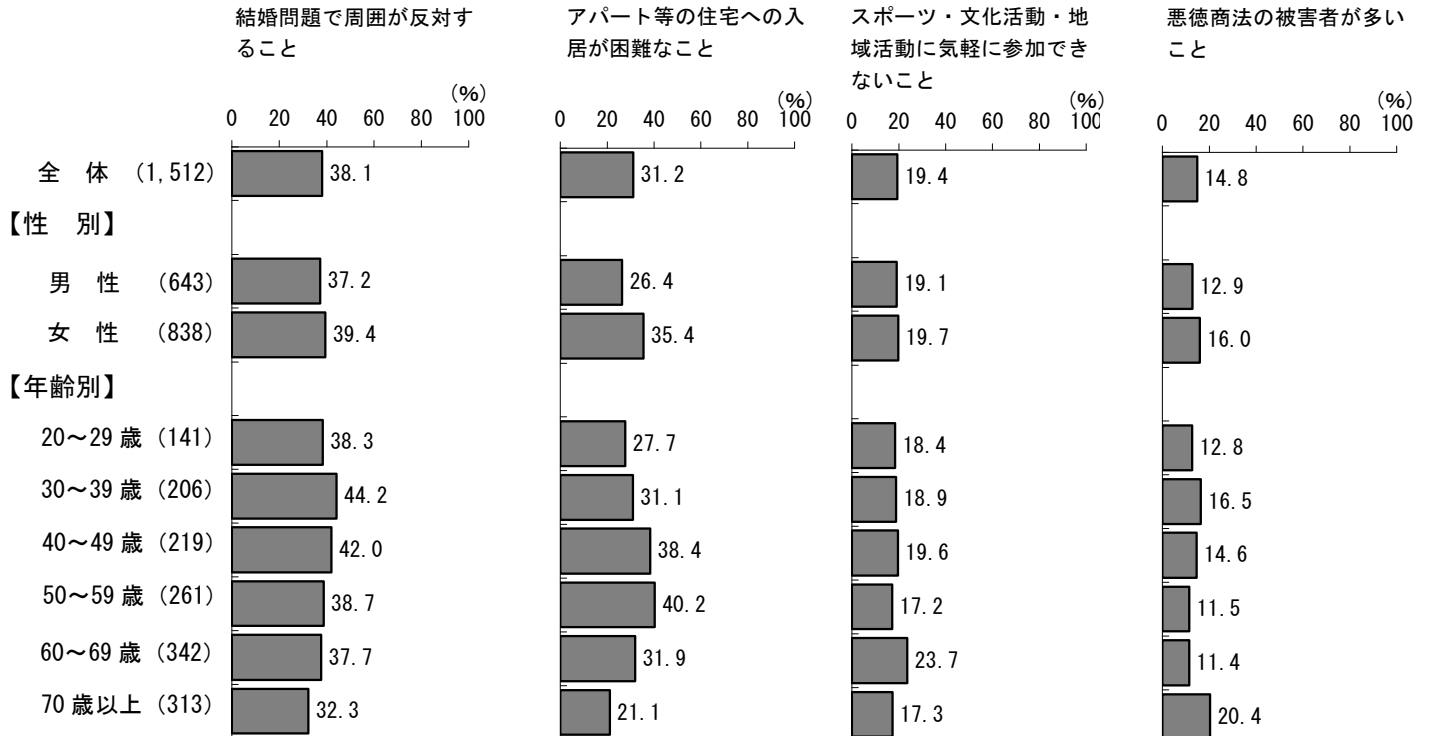
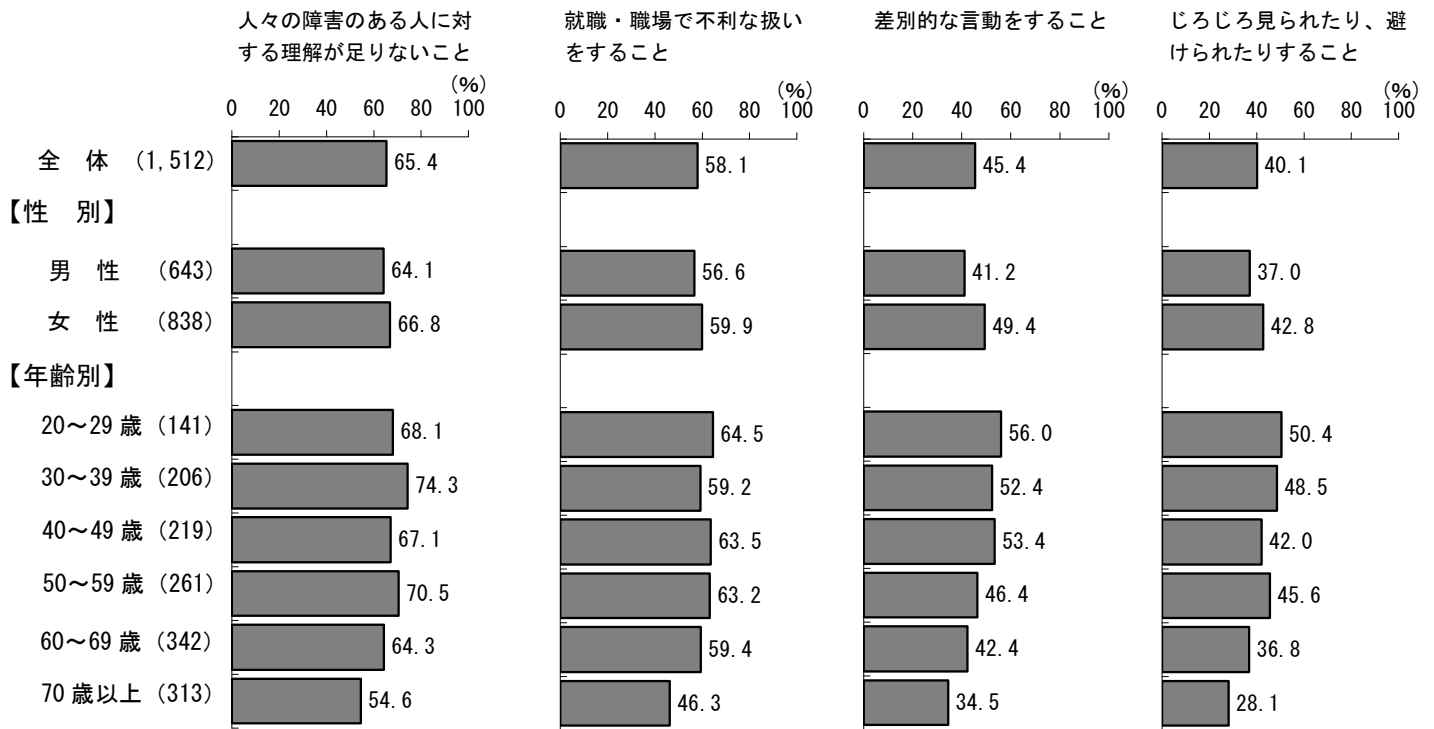
①図 15-1 障害のある人に関し、どのような問題が起きているか【全体】



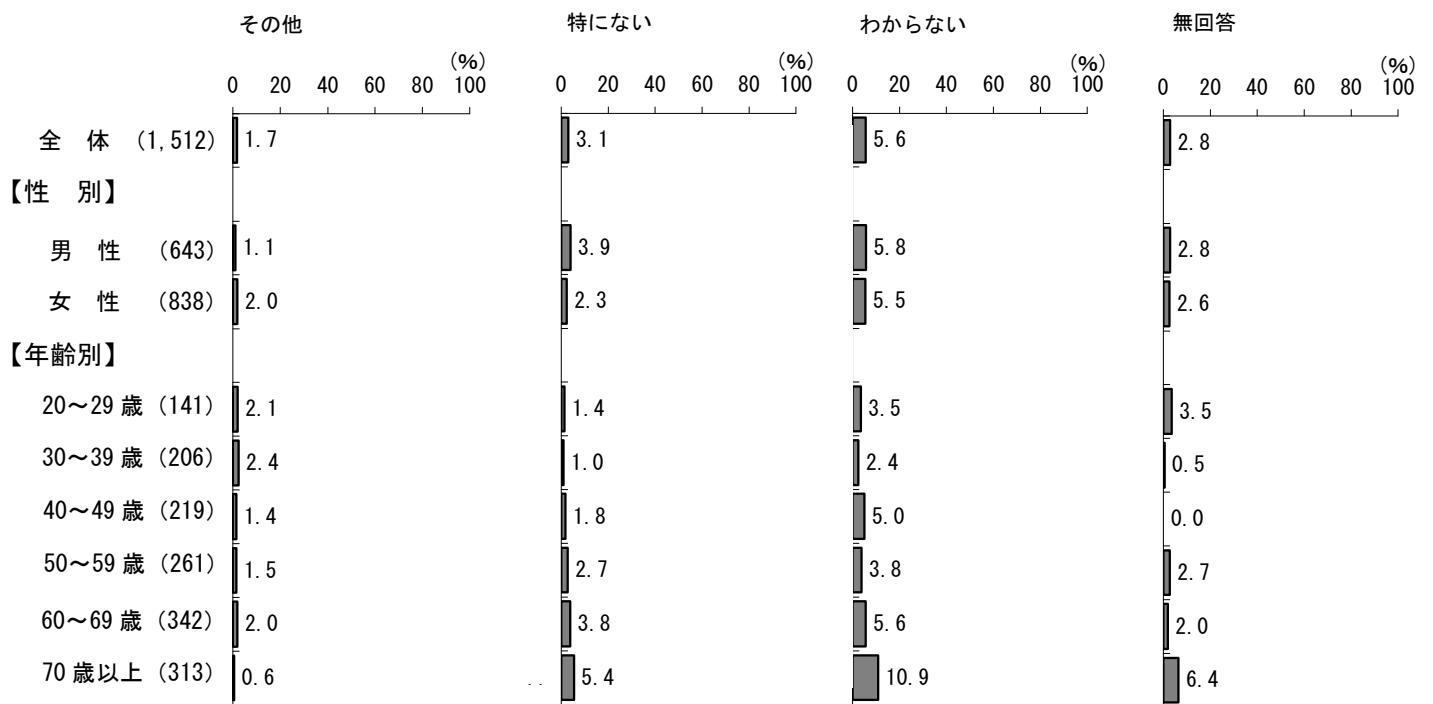
障害のある人に関する人権問題について、「人々の障害のある人に対する理解が足りないこと」が 7割

障害のある人に関し、どのような問題が起きているかについて、「人々の障害のある人に対する理解が足りないこと」と回答した人の割合が 65.4%と最も高く、次いで「就職・職場で不利な扱いをすること」(58.1%)、「差別的な言動をすること」(45.4%)の順となっている。

②図 15-2 障害のある人に関し、どのような問題が起きているか【性別・年齢別】







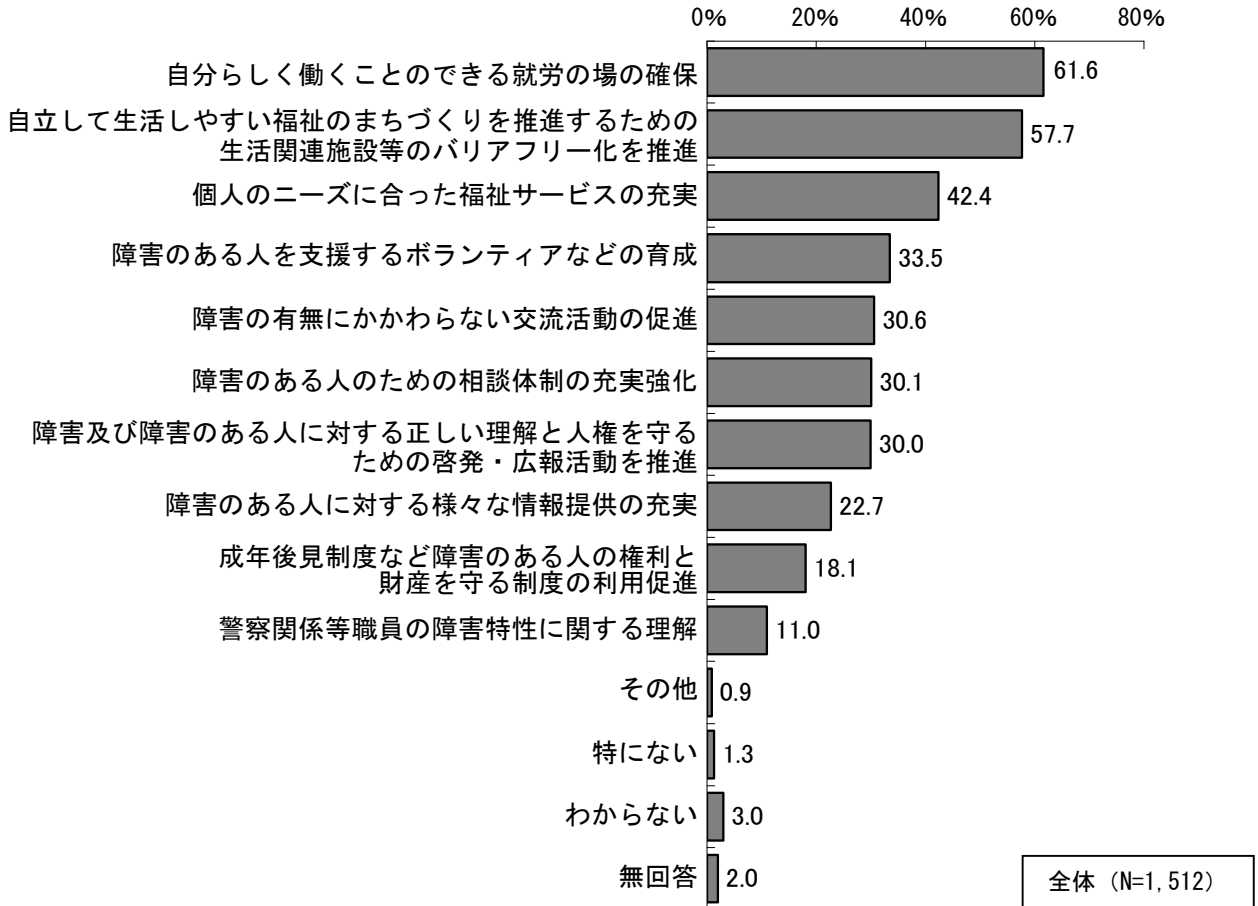
性別で比較すると、女性の方が「差別的な言動をすること」(49.4%)、「アパート等の住宅への入居が困難なこと」(35.4%)と回答した人の割合が、男性の41.2%、26.4%と比べて高くなっている。

年齢別で比較すると、「人々の障害のある人に対する理解が足りないこと」では30～39歳で回答した人の割合は74.3%と高くなっている。また、「差別的な言動をすること」、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」、「結婚問題で周囲が反対すること」と回答した人の割合は、年齢が低くなるにつれてそれぞれ高くなる傾向にある。

ア 障害のある人の人権を守るために必要なこと

問 14 障害のある人の人権が守られるためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
(✓は5つまで)

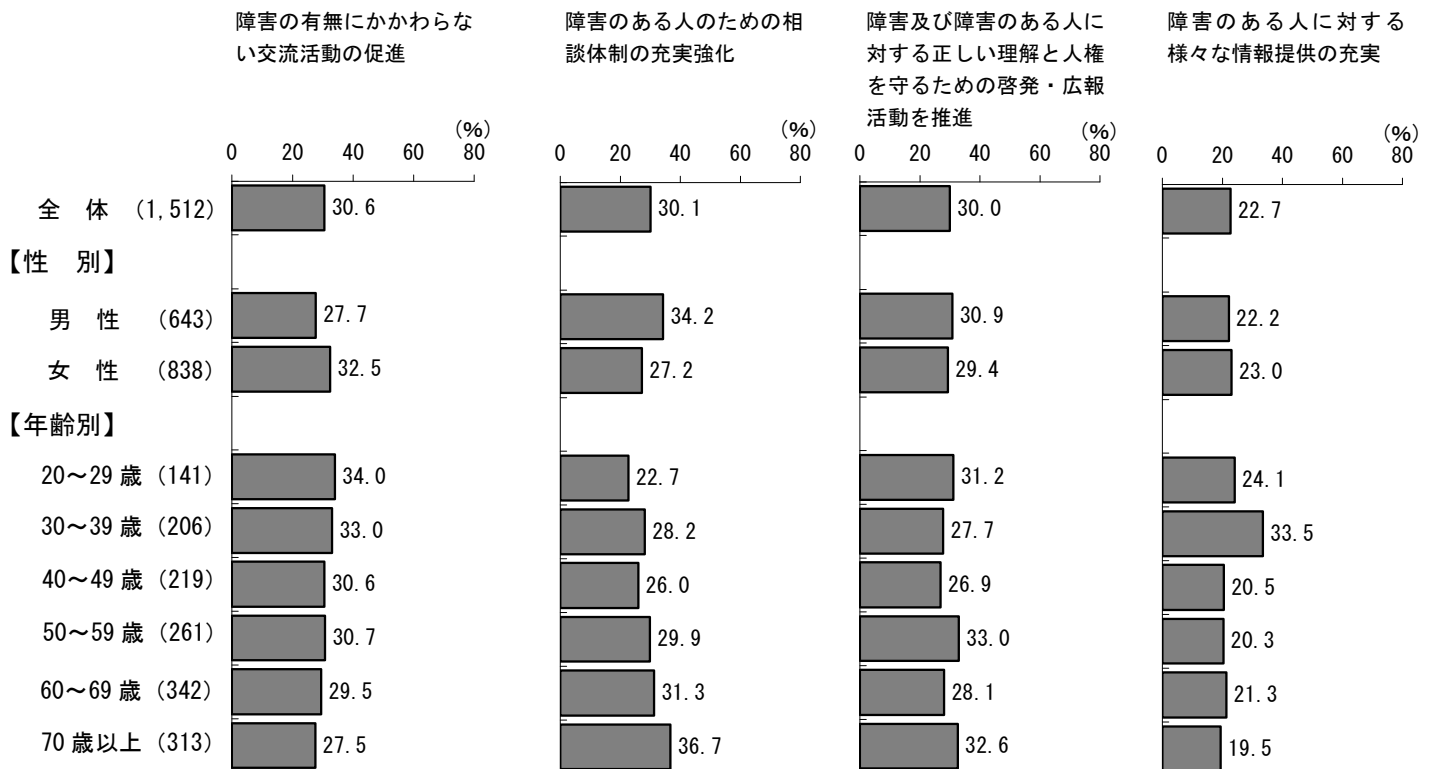
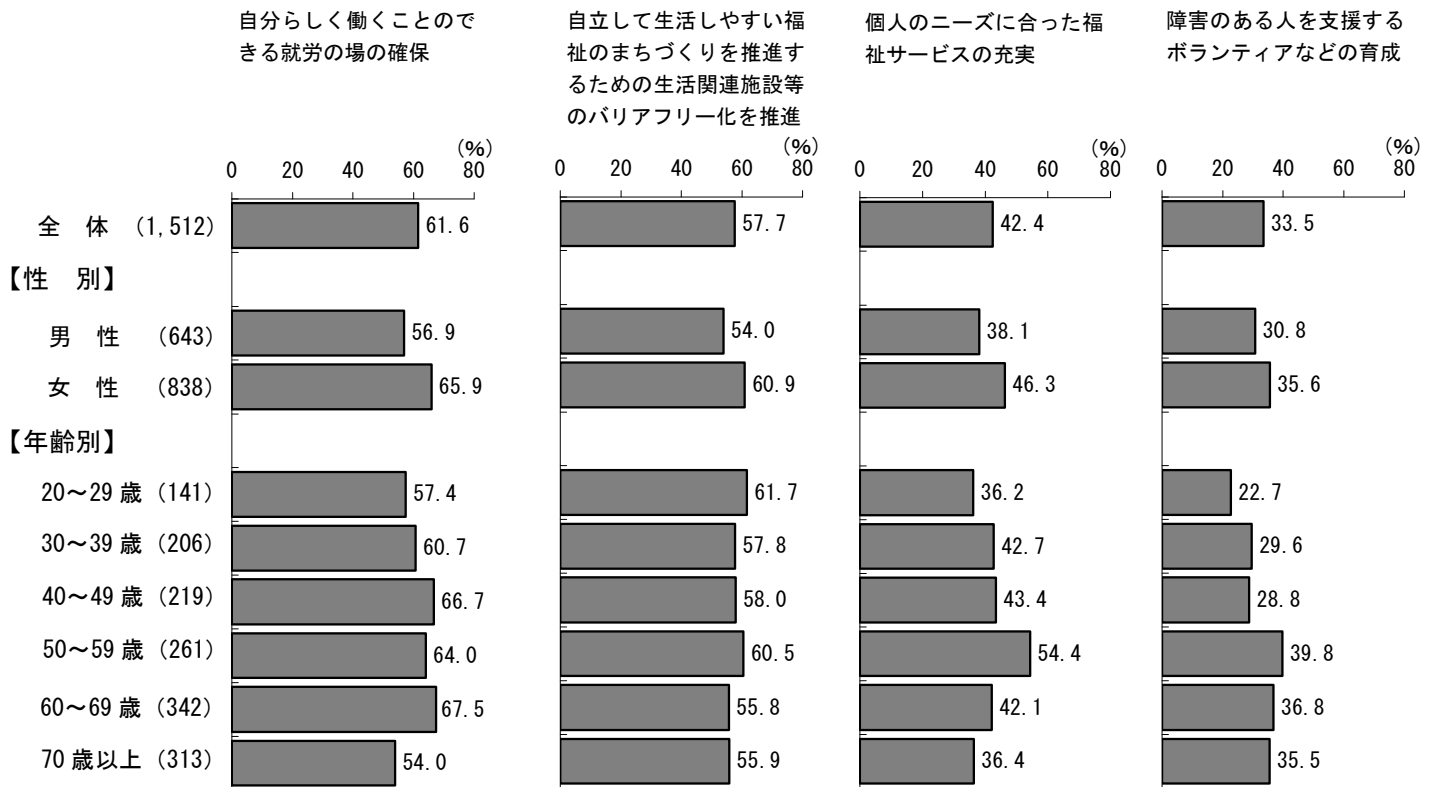
①図 16-1 障害のある人の人権を守るために必要なこと【全体】

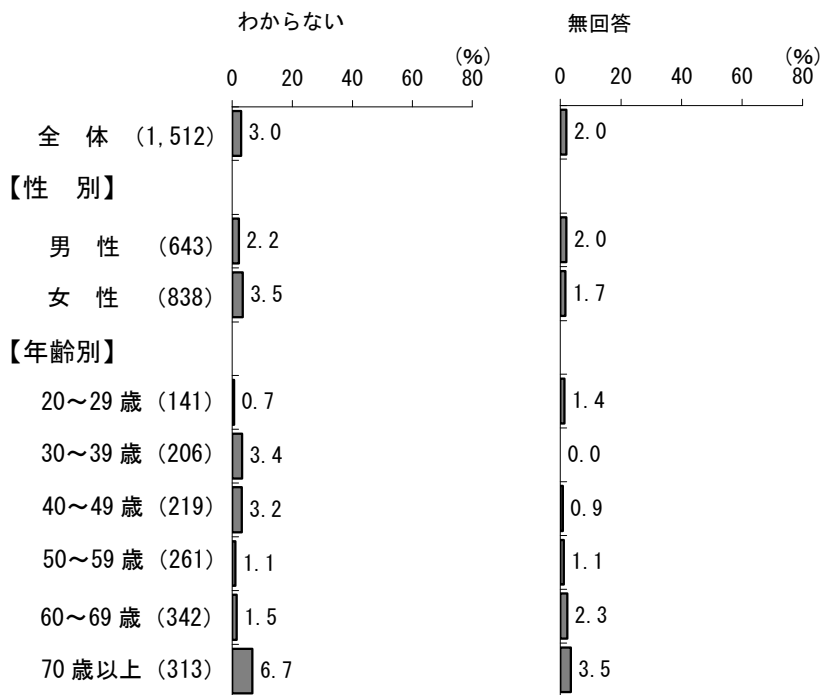
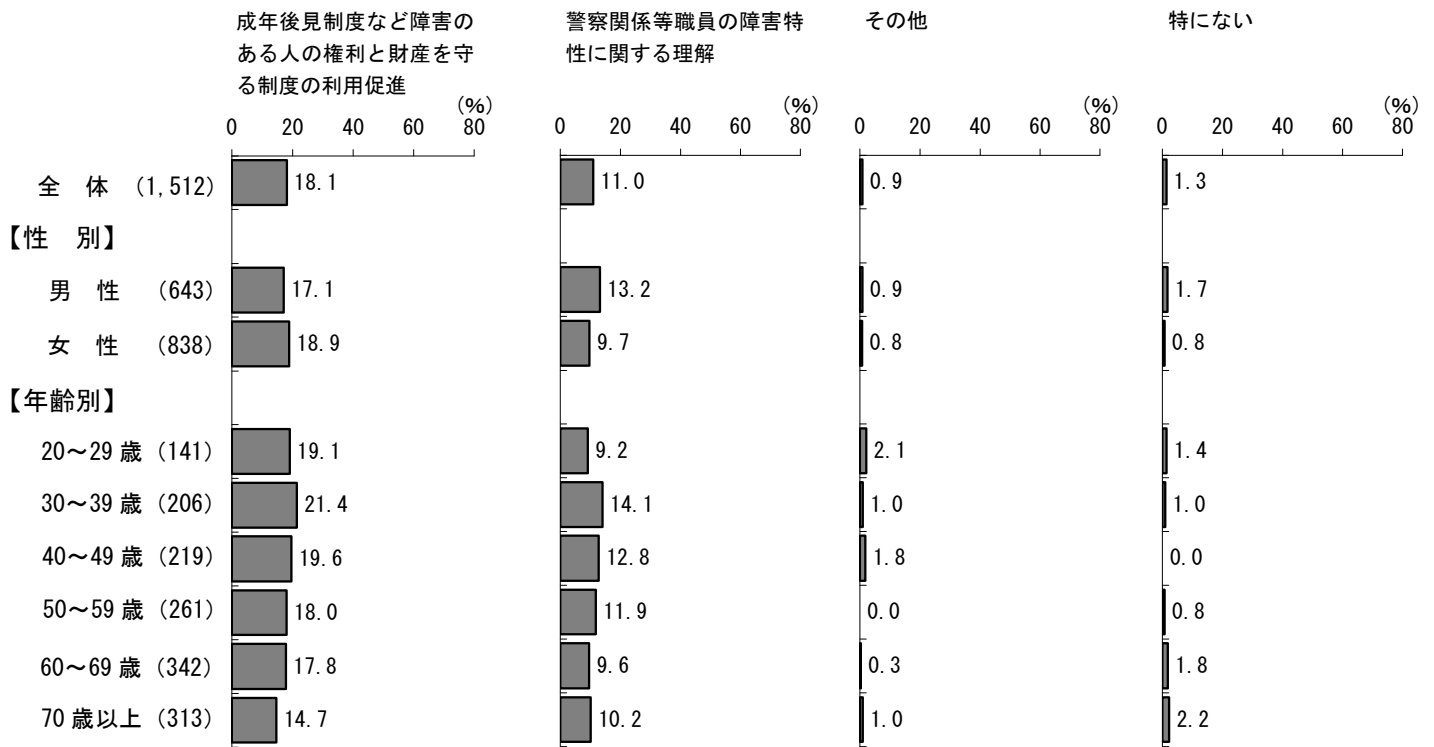


障害のある人の人権を守るために必要なことについて、「就労の場の確保」、「生活関連施設等のバリアフリー化を推進」がともに 6 割

障害のある人の人権を守るために必要なことについて、「自分らしく働くことのできる就労の場の確保」と回答した人の割合が 61.6%と最も高く、次いで「自立して生活しやすい福祉のまちづくりを推進するための生活関連施設等のバリアフリー化を推進」(57.7%)、「個人のニーズに合った福祉サービスの充実」(42.4%)の順となっている。

②図 16-2 障害のある人の人権を守るために必要なこと【性別・年齢別】





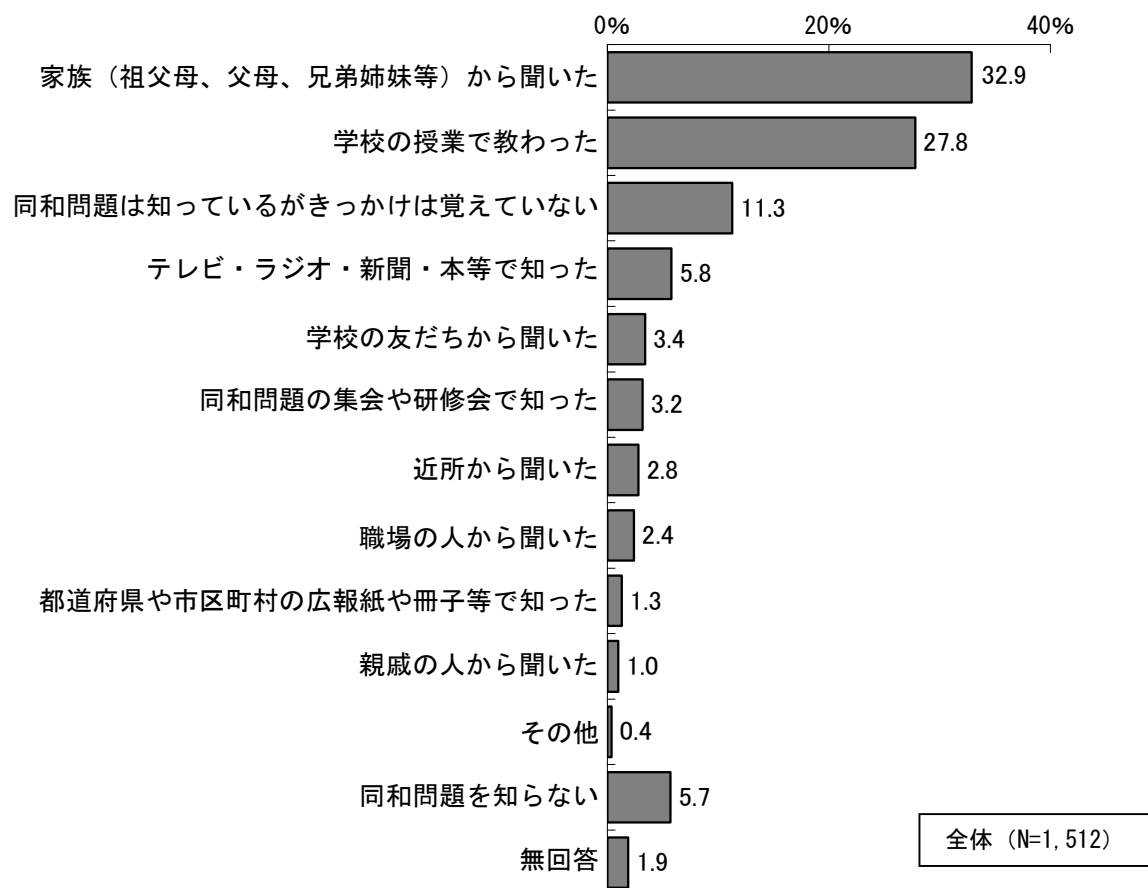
性別で比較すると、女性の方が「自分らしく働くことのできる就労の場の確保」(65.9%)、「個人のニーズに合った福祉サービスの充実」(46.3%)と回答した人の割合が、男性の56.9%、38.1%と比べて高くなっている。

年齢別で比較すると、「個人のニーズに合った福祉サービスの充実」では50~59歳で回答した人の割合が54.4%と高くなっている。また、「障害のある人に対する様々な情報提供の充実」では30~39歳で回答した人の割合が33.5%と高くなっている。

(6) 同和問題を知ったきっかけ

問 15 あなたは、同和問題について、初めて知ったきっかけは、何からですか。(✓は1つ)

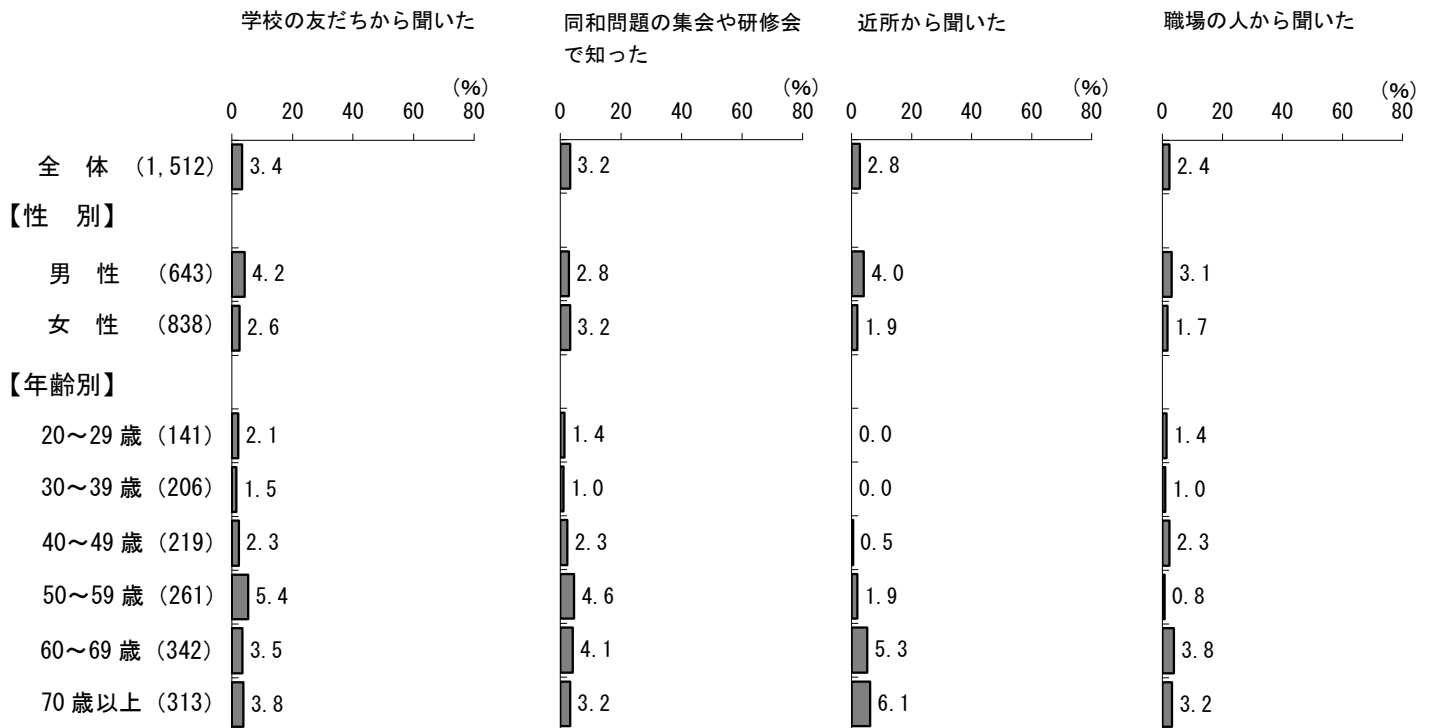
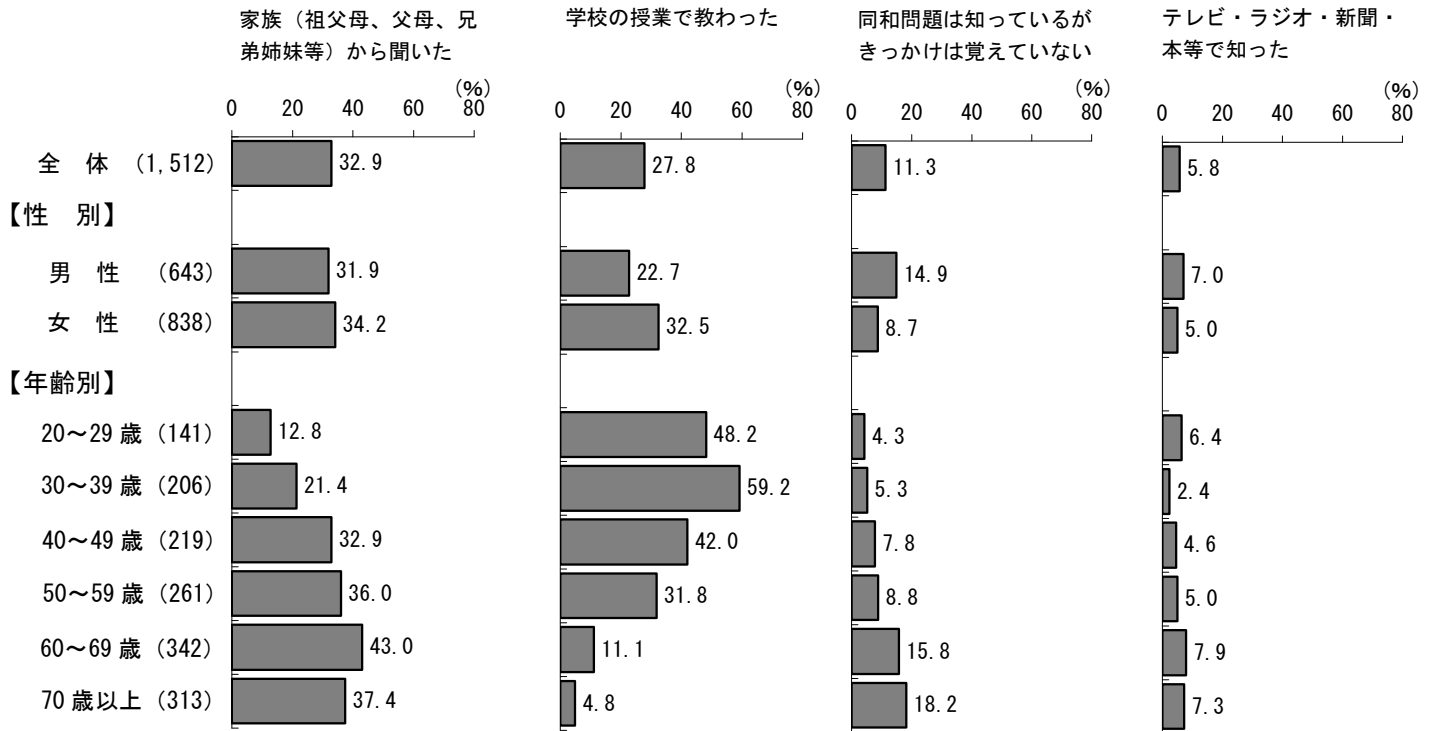
① 図 17-1 同和問題を知ったきっかけ【全体】

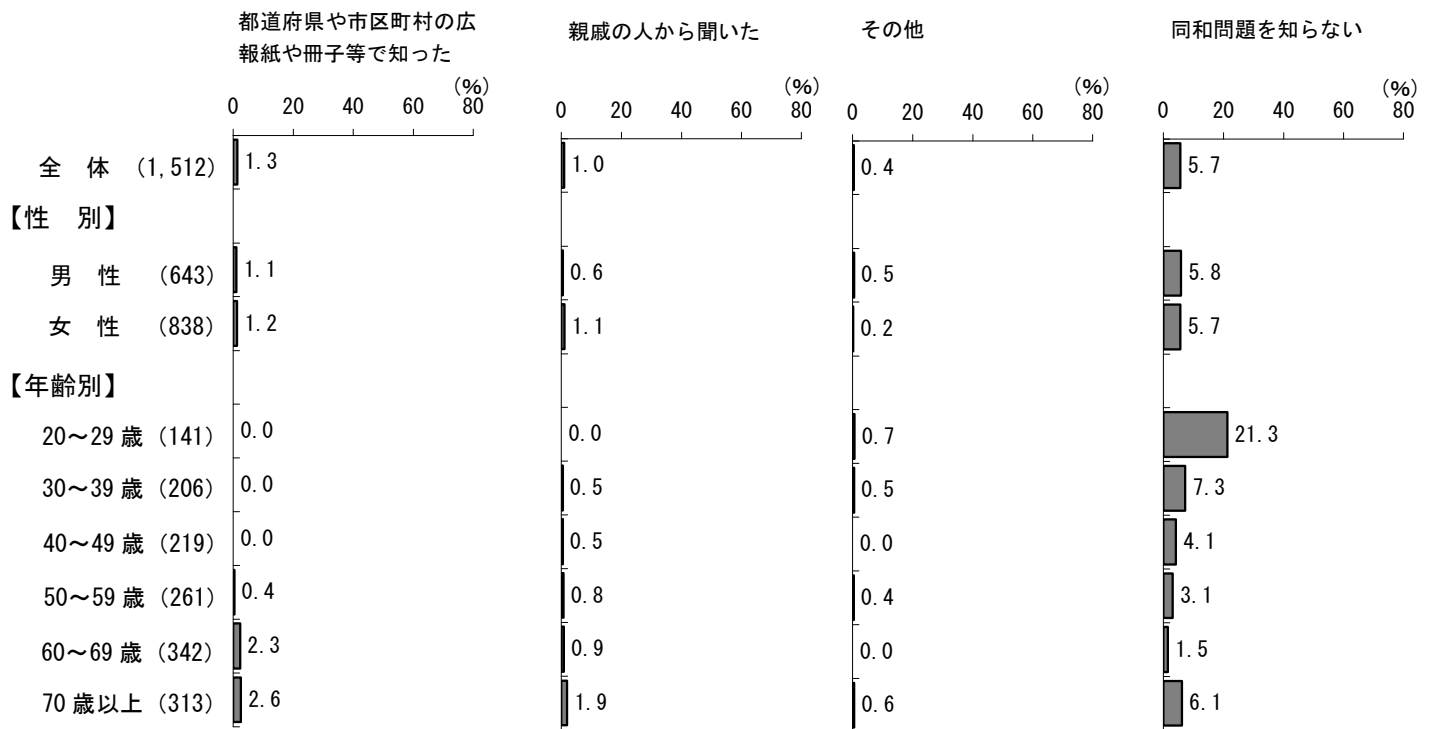


同和問題を知ったきっかけについて、「家族から聞いた」、「学校の授業で教わった」がともに3割

同和問題を知ったきっかけについて、「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹等）から聞いた」と回答した人の割合が32.9%と最も高く、次いで「学校の授業で教わった」（27.8%）、「同和問題は知っているがきっかけは覚えていない」（11.3%）の順となっている。

②図 17-2 同和問題を知ったきっかけ【性別・年齢別】





性別で比較すると、女性の方が「学校の授業で教わった」と回答した人の割合が32.5%と、男性の22.7%と比べて高くなっている。

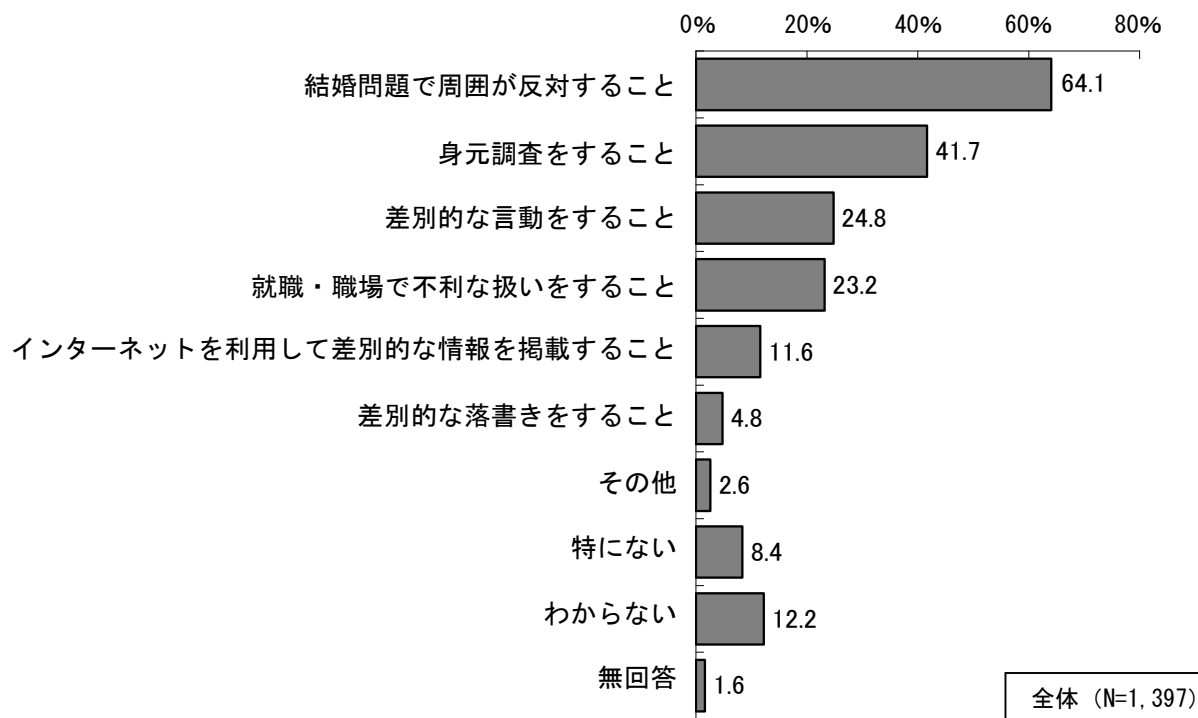
年齢別で比較すると、「同和問題を知らない」では20~29歳で回答した人の割合が21.3%と高くなっている。また、「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹等）から聞いた」、「同和問題は知っているがきっかけは覚えていない」と回答した人の割合は、年齢が高くなるにつれて高くなる傾向にある。20~29歳をのぞいて「学校の授業で教わった」と回答した人の割合は、年齢が低くなるにつれて高くなっている。

(7) 同和問題に関し、どのような問題が起きているか

問 15-1 【問 15 で「1～11」を選んだ人のみ回答】

あなたは、同和問題に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(✓はいくつでも)

①図 18-1 同和問題に関し、どのような問題が起きているか【全体】

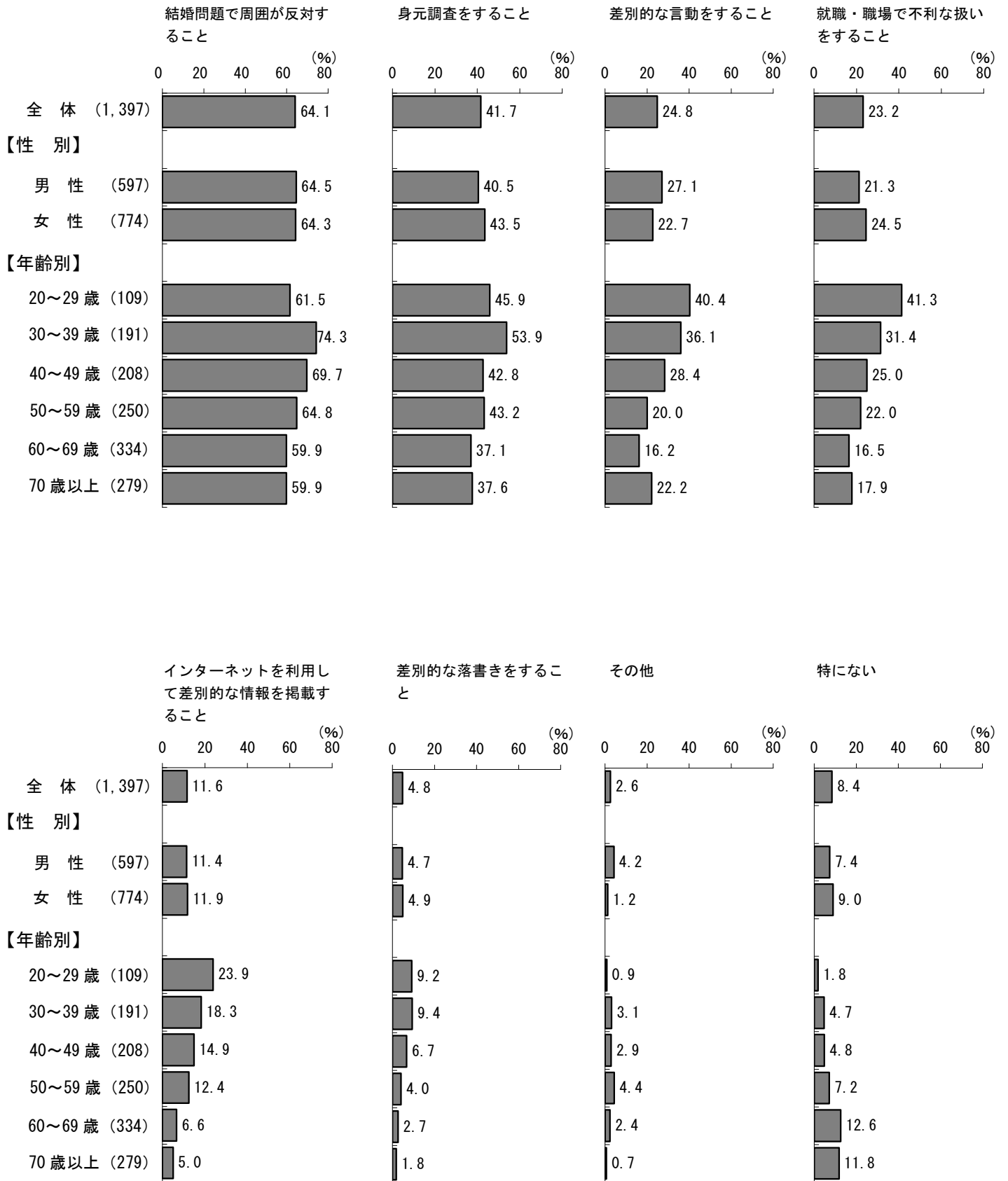


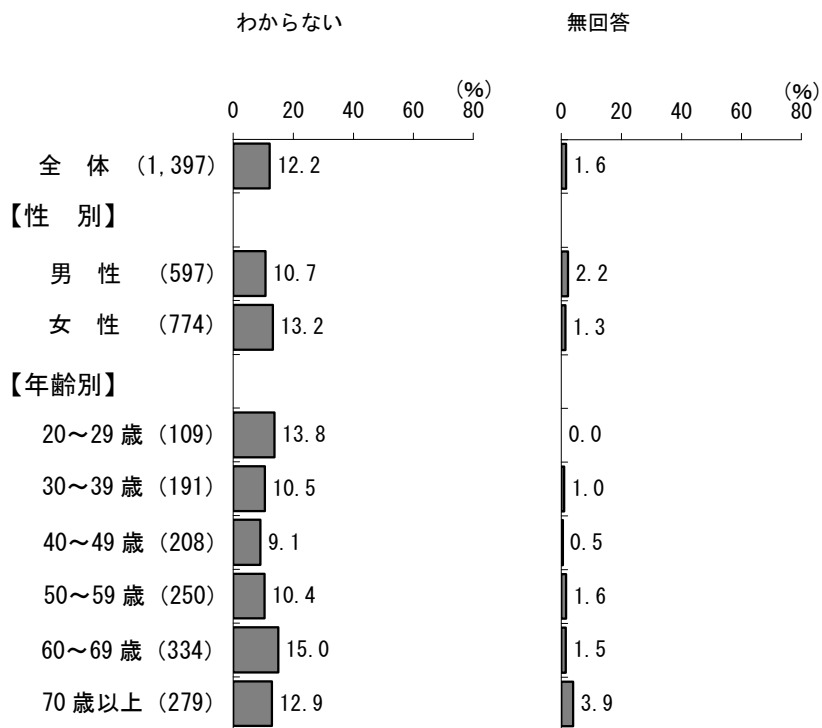
**同和問題に関する人権問題について、「結婚問題で周囲が反対すること」が6割**

同和問題に関し、どのような問題が起きているかについて、「結婚問題で周囲が反対すること」と回答した人の割合が64.1%と最も高く、次いで「身元調査をすること」(41.7%)の順となっている。



②図 18-2 同和問題に関し、どのような問題が起きているか【性別・年齢別】





年齢別で比較すると、「結婚問題で周囲が反対すること」、「身元調査をすること」では30～39歳で、「差別的な言動をすること」、「就職・職場で不利な扱いをすること」では20～29歳で回答した人の割合がそれぞれ高くなっている。

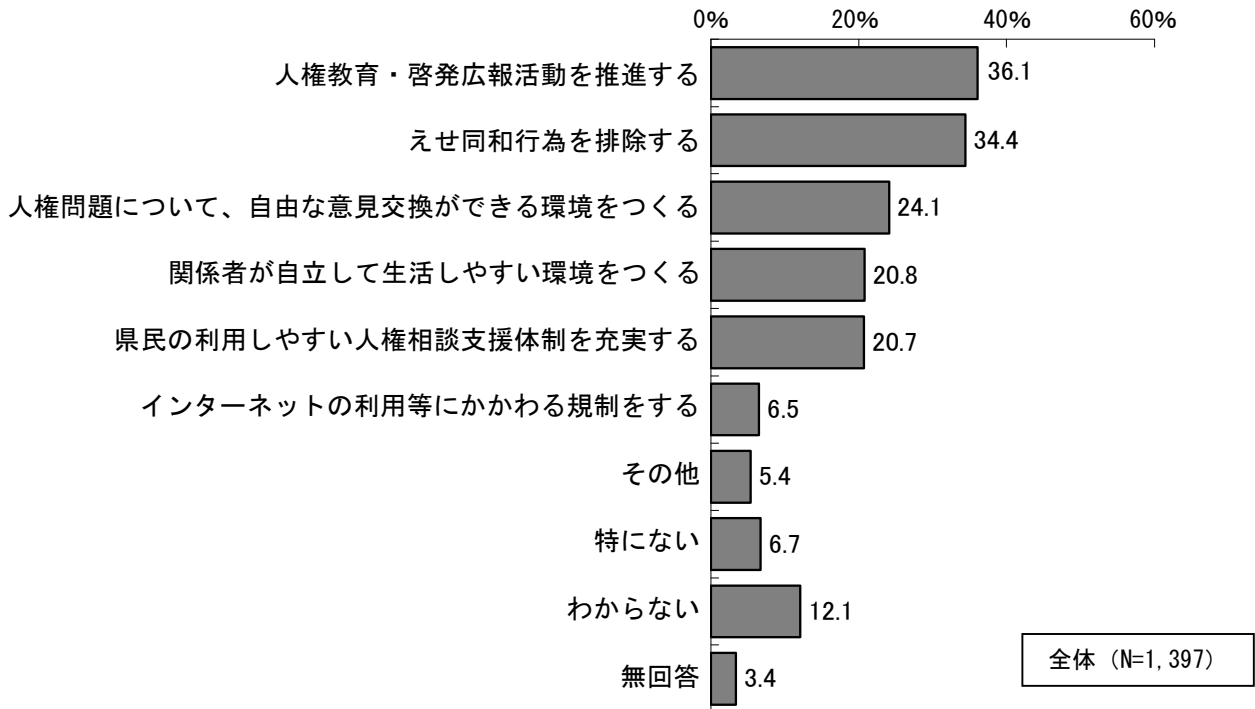
ア 同和問題を解決するために必要なこと

問 15-2 【問 15 で「1～11」を選んだ人のみ回答】

同和問題の解決のためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(✓は3つまで)

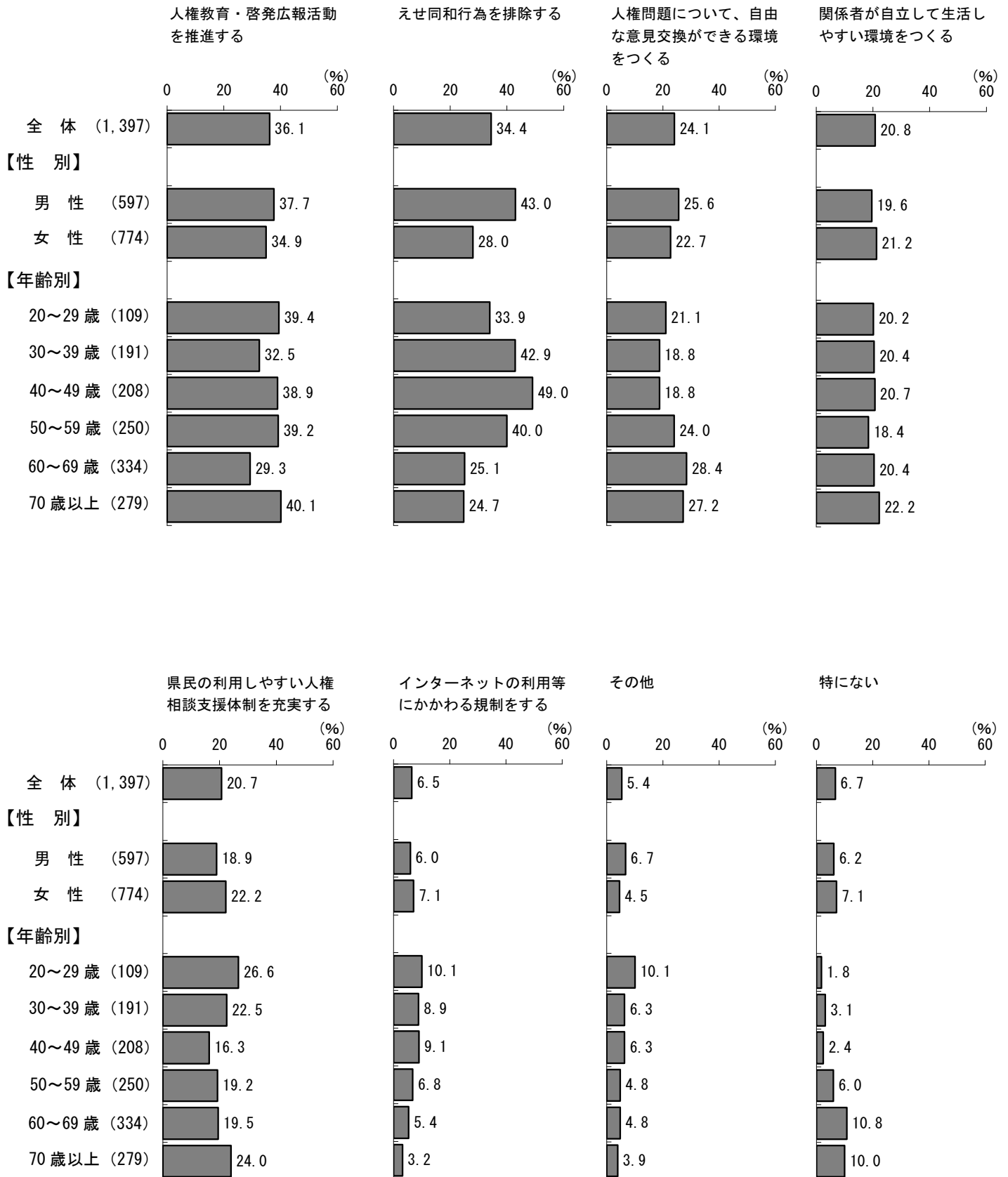
①図 19-1 同和問題を解決するために必要なこと【全体】

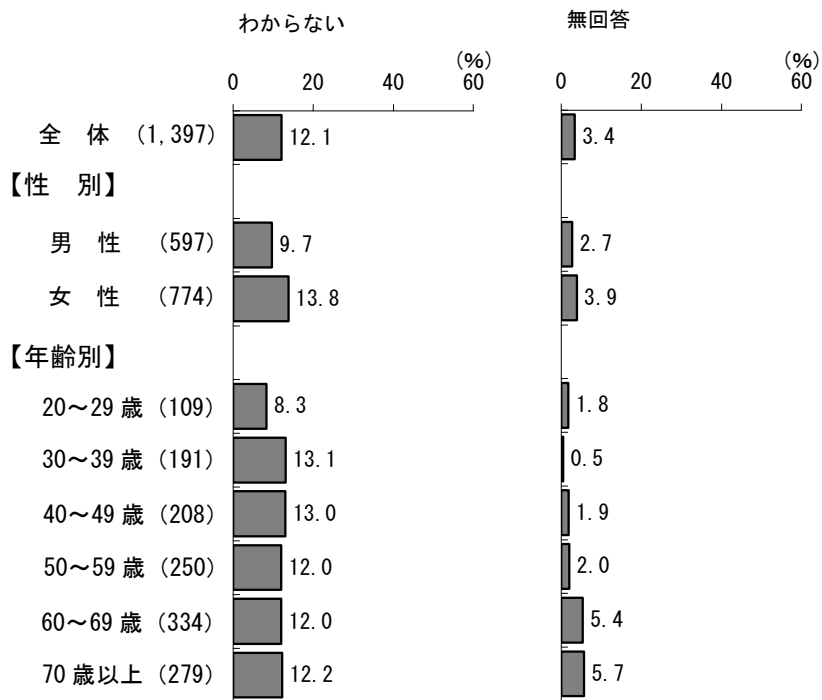


同和問題を解決するために必要なことについて、「人権教育・啓発広報活動を推進する」が4割、「えせ同和行為を排除する」が3割

同和問題を解決するために必要なことについて、「人権教育・啓発広報活動を推進する」と回答した人の割合が36.1%と最も高く、次いで「えせ同和行為を排除する」(34.4%)、「人権問題について、自由な意見交換ができる環境をつくる」(24.1%)の順となっている。

②図 19-2 同和問題を解決するために必要なこと【性別・年齢別】





性別で比較すると、男性の方が「えせ同和行為を排除する」と回答した人の割合が 43.0%と、女性の 28.0%と比べて高くなっている。

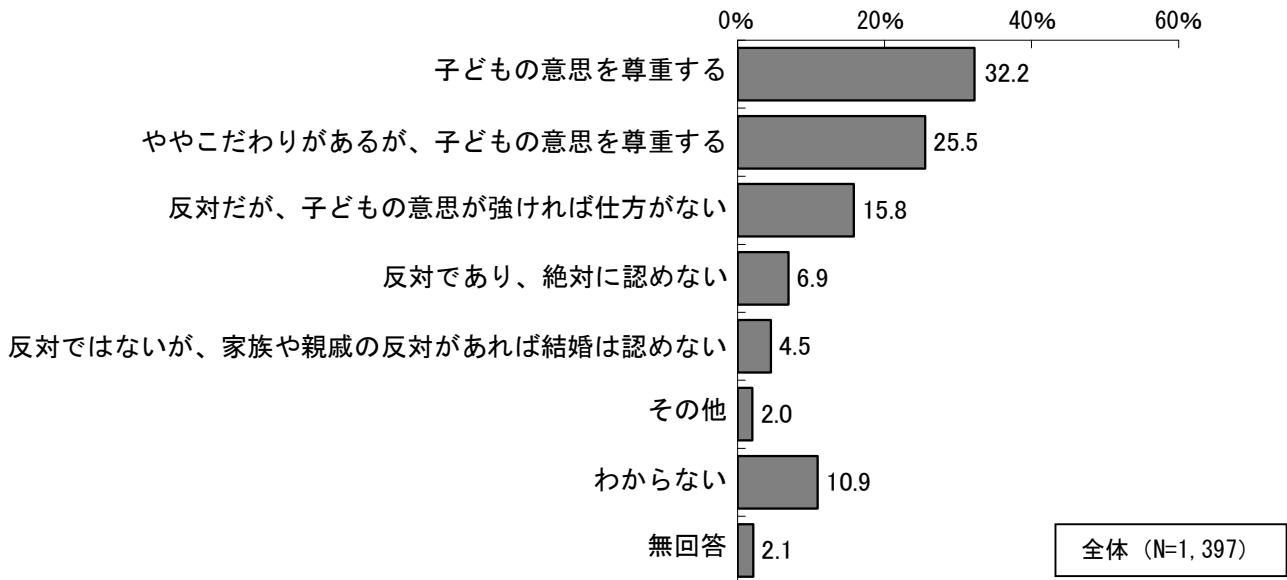
年齢別で比較すると、「えせ同和行為を排除する」では 30～59 歳で回答した人の割合が 4 割を超え高くなっている。

## イ 同和問題に係る結婚に対する考え方

### 問 15-3 【問 15 で「1~11」を選んだ人のみ回答】

あなたに未婚のお子さんがあると想定して、そのお子さんが、かつていわゆる「同和地区」と呼ばれていたところの出身の人と結婚しようとする場合、あなたはどうしますか。(✓は1つ)

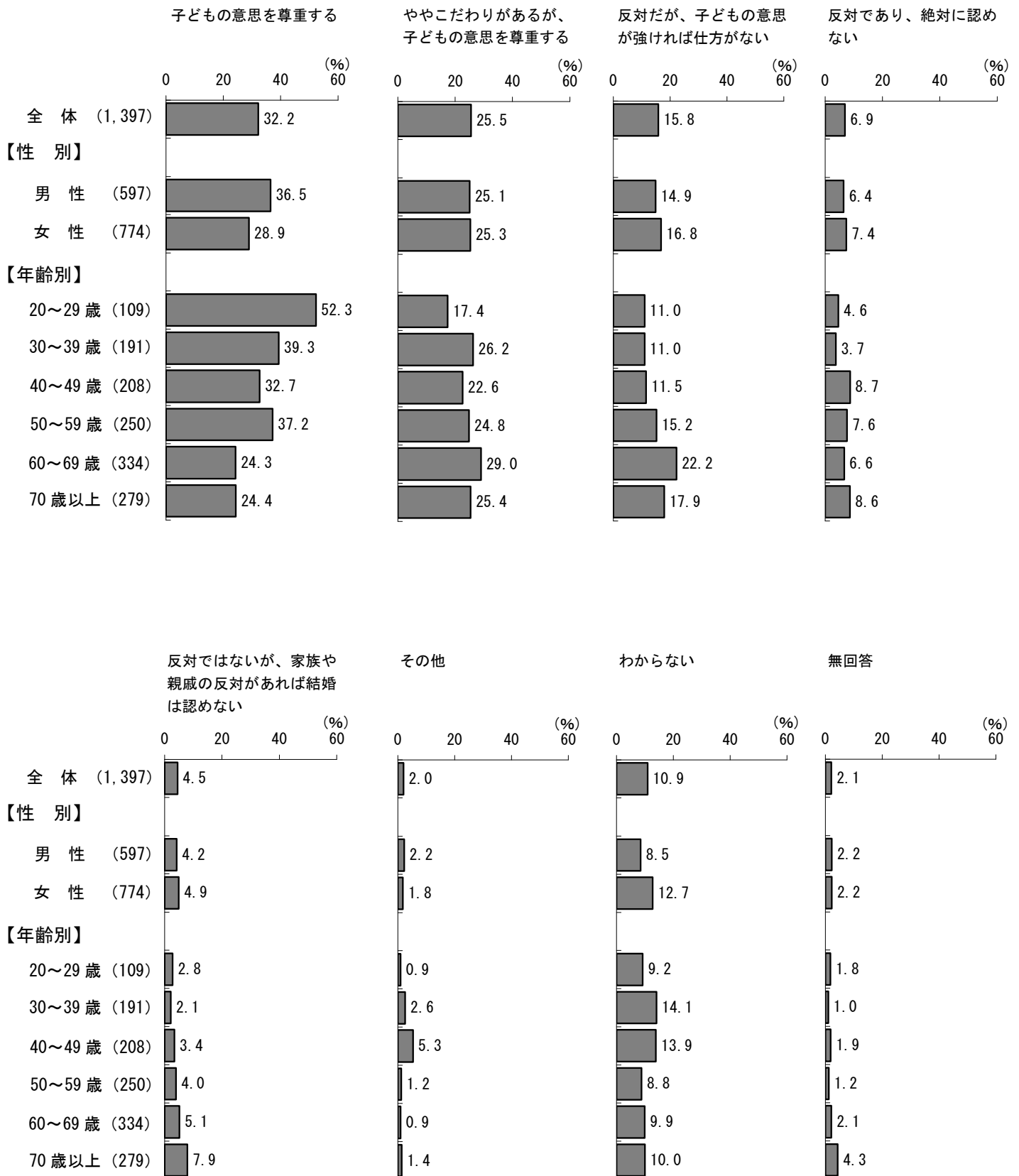
#### ①図 20-1 同和問題に係る結婚に対する考え方【全体】



同和問題に係る結婚に対する考え方について、「子どもの意思を尊重する」、「ややこだわりがあるが、子どもの意思を尊重する」、「反対だが、子どもの意思が強ければ仕方がない」の3つをあわせると7割以上

同和問題に係る結婚に対する考え方について、「子どもの意思を尊重する」と回答した人の割合が32.2%と最も高く、次いで「ややこだわりがあるが、子どもの意思を尊重する」(25.5%)、「反対だが、子どもの意思が強ければ仕方がない」(15.8%)の順となっている。

②図 20-2 同和問題に係る結婚に対する考え方【性別・年齢別】



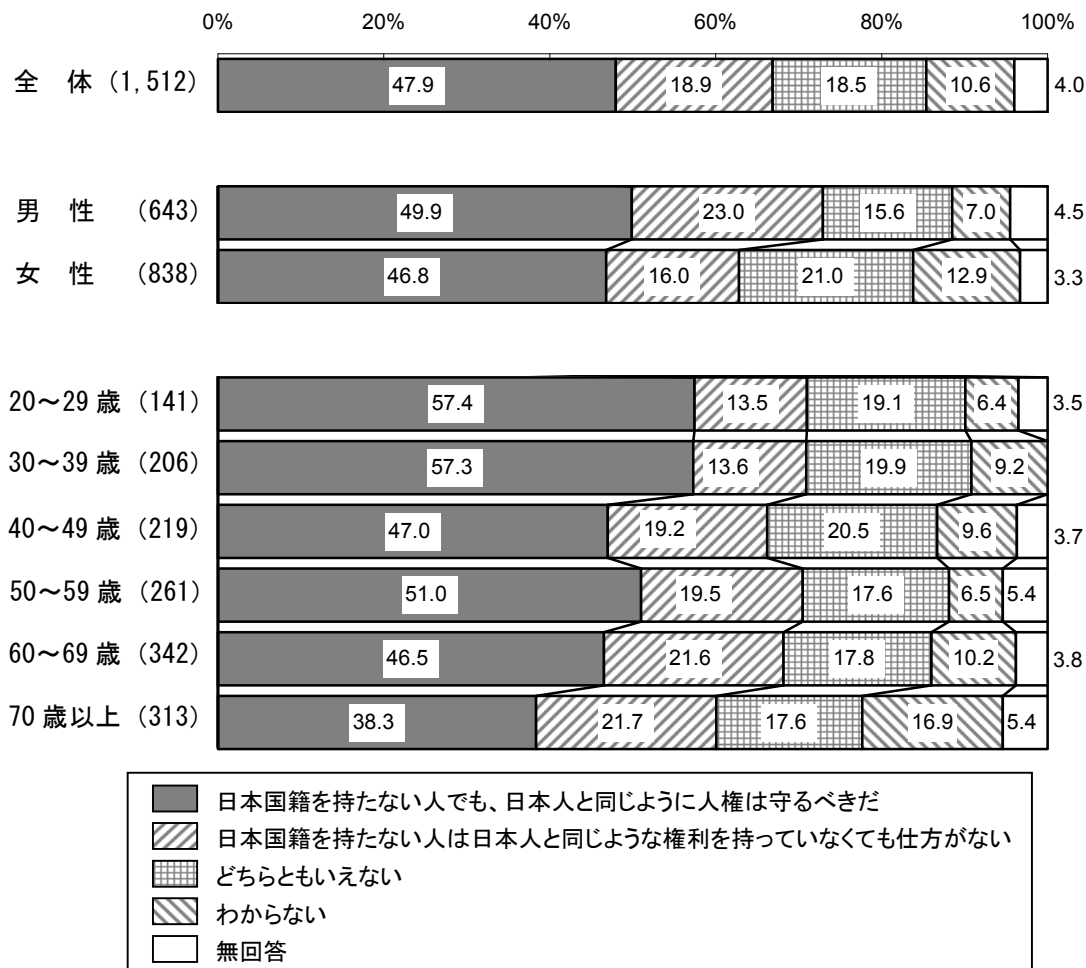
性別で比較すると、男性の方が「子どもの意思を尊重する」と回答した人の割合が 36.5%と、女性の 28.9%と比べて高くなっている。

年齢別で比較すると、「子どもの意思を尊重する」では 20~29 歳で回答した人の割合が 52.3%と高くなっている。

(8) 在住外国人の人権擁護についての考え方

問 16 在住外国人は、生活上のいろいろな面で差別されていると言われていますが、外国人の人権擁護について、あなたの意見は次のどちらに近いですか。(✓は1つ)

図 21 在住外国人の人権擁護についての考え方



在住外国人の人権擁護についての考え方について、「日本国籍を持たない人でも、日本人と同じように人権は守るべきだ」が5割

在住外国人の人権擁護についての考え方について、「日本国籍を持たない人でも、日本人と同じように人権は守るべきだ」と回答した人の割合が47.9%と最も高く、次いで「日本国籍を持たない人は日本人と同じような権利を持っていなくても仕方がない」(18.9%)の順となっている。

性別で比較すると、男性の方が「日本国籍を持たない人は日本人と同じような権利を持っていなくても仕方がない」と回答した人の割合が23.0%と、女性の16.0%と比べて高くなっている。

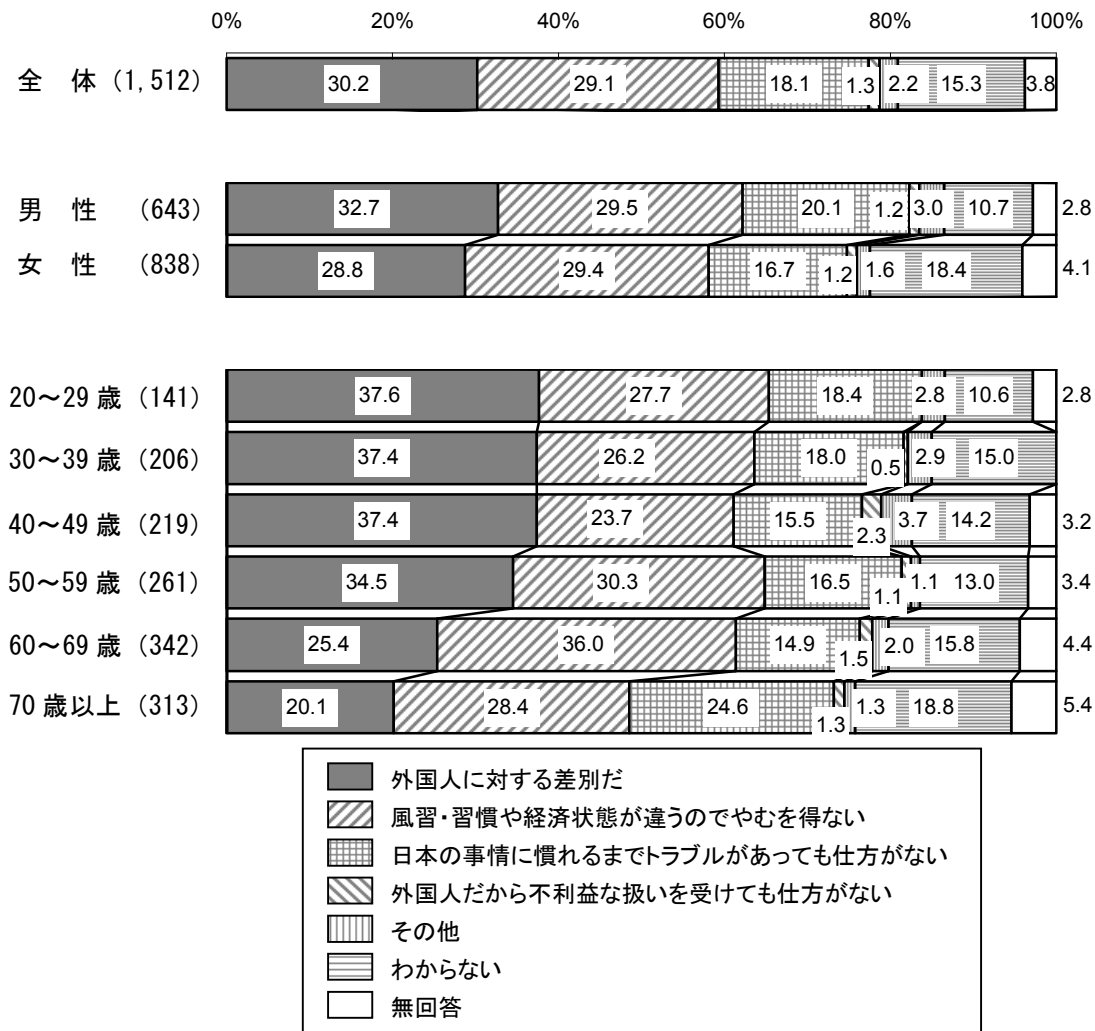
年齢別では、「日本国籍を持たない人でも、日本人と同じように人権は守るべきだ」と回答した人の割合は、年齢が低くなるにつれて高くなる傾向にある。



(9) 在住外国人が不利益な取扱いを受けることについての考え方

問 17 在住外国人が不利益な取扱いを受けることがあります。あなたはこのことについてどう思いますか。(✓は1つ)

図 22 在住外国人が不利益な取扱いを受けることについての考え方



在住外国人が不利益な取扱いを受けることについての考え方について、「外国人に対する差別だ」、「風習・習慣や経済状態が違うのでやむを得ない」がともに3割

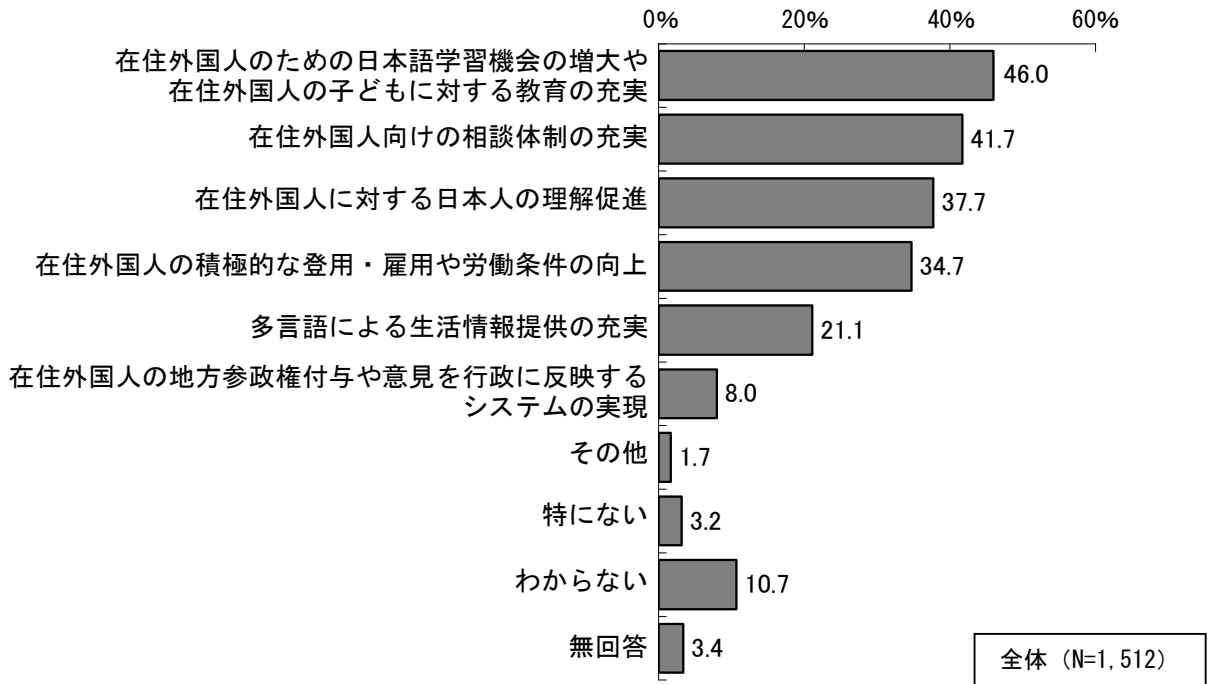
在住外国人が不利益な取扱いを受けることについての考え方について、「外国人に対する差別だ」と回答した人の割合が30.2%と最も高く、次いで「風習・習慣や経済状態が違うのでやむを得ない」(29.1%)、「日本の事情に慣れるまでトラブルがあっても仕方がない」(18.1%)の順となっている。

年齢別で比較すると、「外国人に対する差別だ」では20～49歳で回答した人の割合が4割と高くなっている。

ア 在住外国人の人権を守るために必要なこと

問 18 在住外国人の人権が守られるためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
(✓は3つまで)

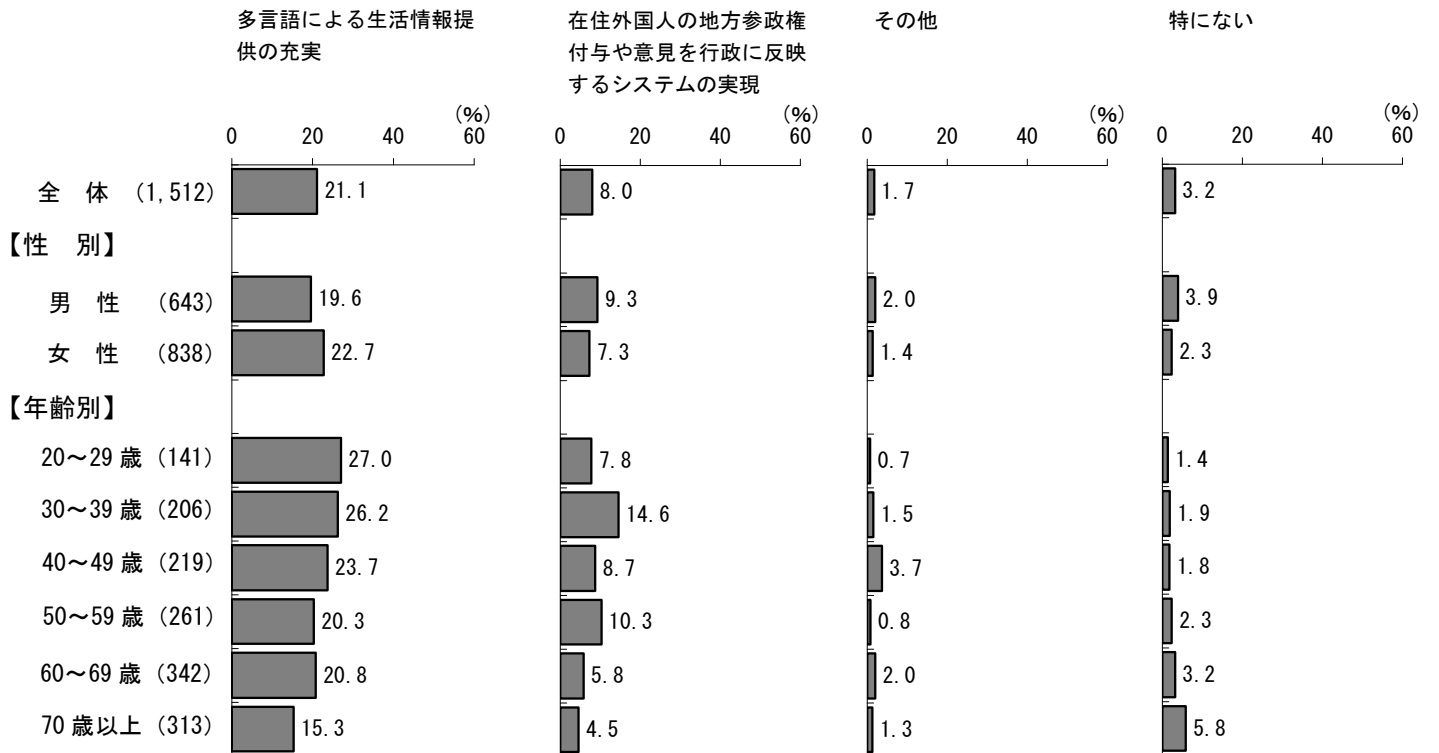
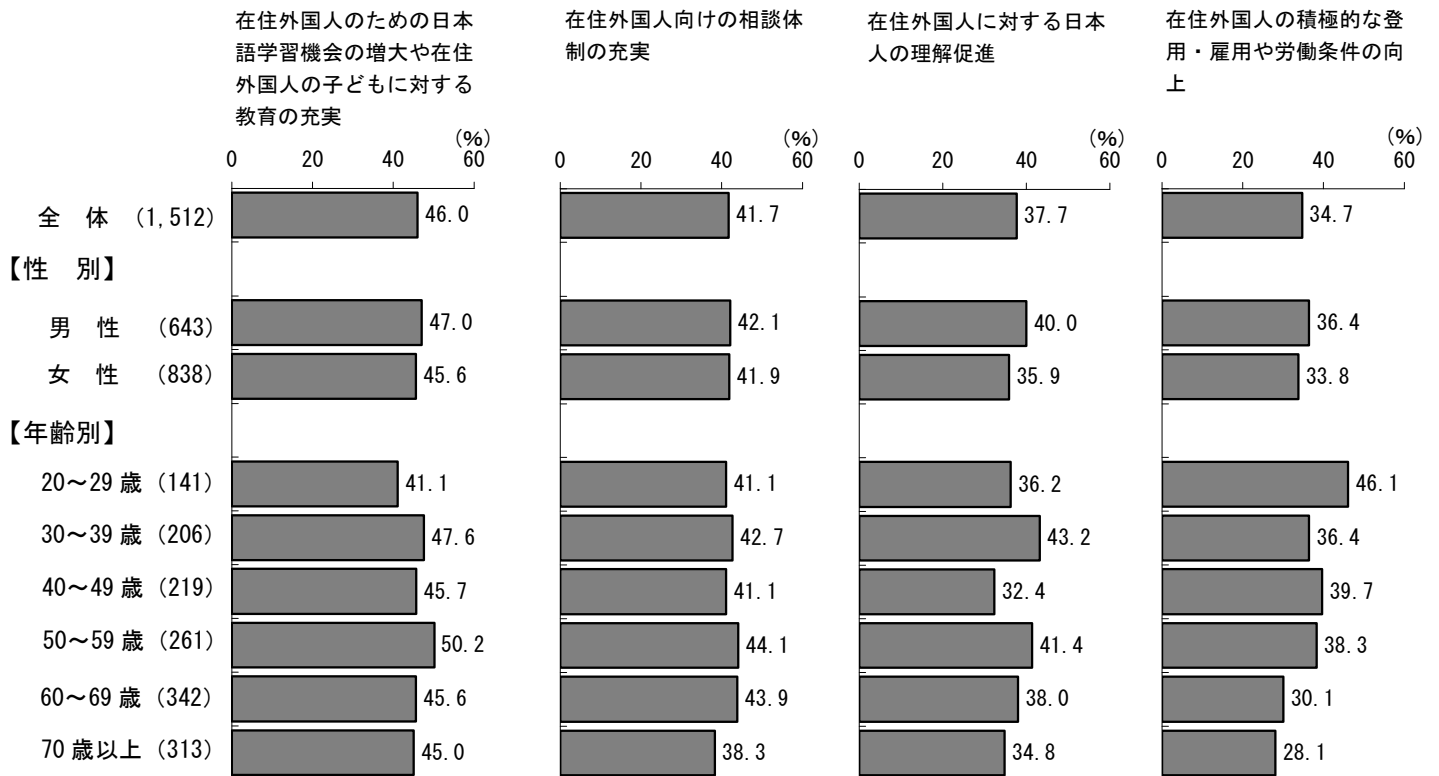
①図 23-1 在住外国人の人権を守るために必要なこと【全体】

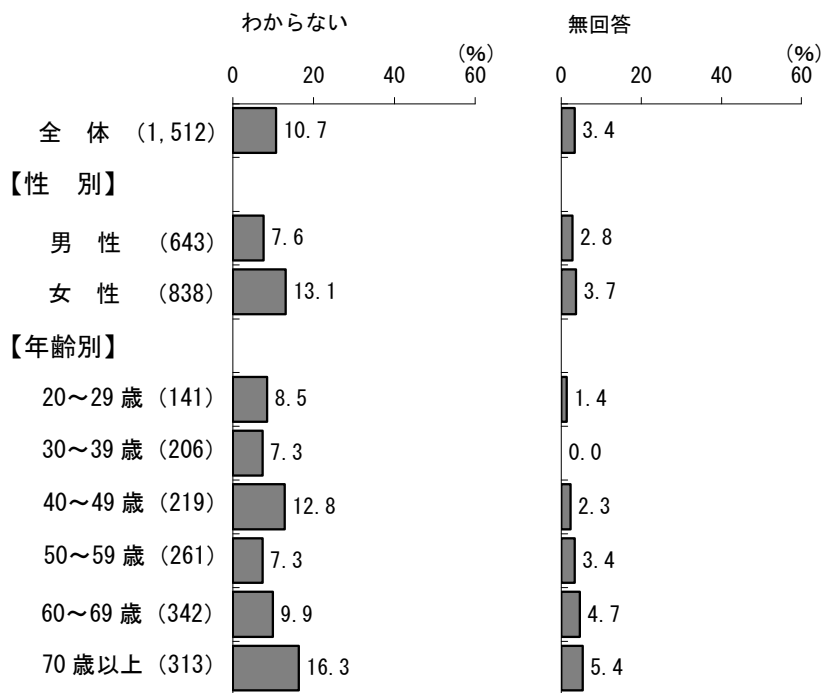


在住外国人の人権が守られるために必要なことについて、「在住外国人のための日本語学習機会の増大や在住外国人の子どもに対する教育の充実」が5割

在住外国人の人権を守るために必要なことについて、「在住外国人のための日本語学習機会の増大や在住外国人の子どもに対する教育の充実」と回答した人の割合が46.0%と最も高く、次いで「在住外国人向けの相談体制の充実」(41.7%)、「在住外国人に対する日本人の理解促進」(37.7%)の順となっている。

②図 23-2 在住外国人の人権を守るために必要なこと【性別・年齢別】





年齢別で比較すると、「在住外国人の積極的な登用・雇用や労働条件の向上」と回答した人の割合は、年齢が低くなるにつれて高くなる傾向にある。